

(3)
各地方軍政状況報

0004

RA'-0003

0009

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

報 告
A1002-1

大日本帝國政府

館公第十号

昭和二十年九月十五日

終戰連絡中央事務局長官岡崎勝男殿

千葉縣知事「カニンガム」准將末訪件

九月十一日附館公第九号ニ関シ九月十四日午後二時
齋藤千葉縣知事始メテ「カニンガム」准將ヲ末訪ス
本委員長同席ニ 儀禮的挨拶ノ後 齋藤知事ヲ
就事ノ結果 農民漁民共ニ食糧ヲ始メ農具漁
具等ノ不足状況ヲ述(民生ノ福利増進ニ一層力
カスルト共ニ治安維持ニモ格段ノ責任ヲ持ツ職務
ヲ遂行致ス所存ニシテ殊ニ最近「カニンガム」准將
ノ御好意ニ依リ出漁其地劇場ノ開演等民生ニ多
大ノ御恩惠ヲ得タルハ知事トシテ 極メテ有難ク存ス

(國定規格B5(15×25))

0005

大日本帝國政府

ルモノナリト述ブルヤ「カニンガム」准將ハ近々自今更
再ビ千葉縣廳ヲ往訪致ス予定ナリト「サ時難
漢ガ難シ」和策需濁々裡ニ會談ヲ終了セリ
因ニ當方一般人民モ亦 米側駐屯軍モ共ニ安堵ノ
色濃ク「カニンガム」准將ヨリ 米國軍隊ノ市中
行進ノミナラス 此レマテ 米國軍人ノ自由外出禁
止ノ解除モ極メテ近 日中ノフトナル由ヲ本委員ニ
洩セリ 其ノ為 市中ニ既存スル慰安所ノ開設方
ニ付 夫々當事者側ノ交渉進行中ニシテ 岩手地軍
官民共 其ノ實際上ノ必要ヲ痛感ノ結果 本委員
テ種々具休案ヲ提出シ來ル現状ナリ 本委員
トシテハ 斯ル問題ニ表面上ヨリ 直接関與スルヲ差
控ヘ居リ 米國軍側ニ於テモ「カニンガム」准將ノ
ミハ此ノ問題ニ觸レザルモ 其ノ地ハ實情ヲ具シテ

(國定規格B5(15×25))

0006

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0010

大日本帝國政府

兵士ノ為ニ慰安所ノ利用方ニツキ我方ニ相談ニ來リ
當地警察署及當業者間ニ謀合纏リ近ク既存ノ
施設ヲ然ルベク利用スルニ至ルヤモ知ヒザル現狀ナリ
以上知事「カンニング」准將會見模様報告書方々
當地ノ空氣併セラ申進ス

(國定規格B5(12×18)用紙)

0007

在佐古保駐屯米歩兵第二連隊沿革(第二四節)

(二二六日記)

第一次大戦中佛戦線に活躍、戦後独乙占領の
任務に就き、今般戦争には、ホーランドや戦斗に
参加、今日迄幾多の感状の授與を受け、別名
龍部隊と云ひ、譽言高き連隊である。

(二二六日記) 小倉出張所報告

0008

1900 2-1

連絡調整中央事務局

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0011

館第四号

昭和二十年九月七日

在館山終戦連絡委員長

林

安



岡崎終戦連絡中央事務局長官殿

米軍側態度緩和ニ関スル件

九月三日岡崎終戦連絡中央事務局長官宛館山

第一号月報司令部第一一ニRCT. APO五〇三

ニ関シ申進済ナル處右ニ関シ六日「カニングラム」

少将李委員ニ語ルトコロ左ノ通り

一、學校ハ直ニ開校セラレ度シ

二、米軍側ハ娯娯ト藝妓トヲ區別シ娯家ニ米

兵ノ立入ヲ禁ジタリ 藝妓ニ對シテハ營業

外務省

(日本標準規格B5)

0009

A'1.0.0.2-1

續行差支ナキ旨述ヘタリ (交歓禁止ノ結果米兵

ノ藝妓ト共ニスル遊興ハ當然禁止セラレル

三、藝妓(ケキヤ)ノ存在セザルハ御承知ノ通り

三、劇場ハ直チニ營業ヲ開始セラレンコトヲ希望ス

右ニ関シ映画館出入ノ大衆ニ関シテハ夜間外出ノ

制限ヲ緩和スルニ午後十時迄ニ歸宅セバ可ナリ

四、午前六時ヨリ午後七時ニ至ル自由外出時間ノ延

長ニ関シテハ裏ニ本委員ヨリ當地ノ事情即チ

農夫ノ生活状態漁夫ノ出漁時間郵便局医者

産婆看護婦等ニ関スル事情ヲ申入レテ制限ニ

般的撤廢方ヲ希望シ置ケル處右ニ関シテハ其ノ

身分ヲ明示スル何等カノ方法(例ハ一医師ハ左腕ニ

赤十字ノ印ヲ付スル等)ヲ執ルニ於テハ右制限撤

外務省

(日本標準規格B5)

0010

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0012

公 信 案 一 外 務 省

勵行ヲ要求之末^{（米陸軍ハ）}ル處之ヲ撤回 九月六日午前
六時ヨリ左側通行ニ復歸セリ
右米國軍ノ當方ニ對スル態度緩和方ニ関シ報告申進ス

(日本標準規格 B5)

0012

公 信 案 一 外 務 省

六 海兵隊ハ進駐當時道路通行ニ関シ右側通行
一般市民ニハ安堵ノ氣分溢リ居ル旨述ベ置ケリ
如何ナルモノナリヤトノ質問ヲナシタルニ付 本委員ヨリ
望スル旨述ベ 館山市民ノ米軍ニ對スル氣分ハ
以テ市民一般ハ愉快ニ其ノ生活ヲ繼續スルコトヲ希
志ナク寧口其ノ生活ノ向上ヲ衷心ヨリ希望シ居ルヲ
五 カンニングハム」ヲ將ハ日本國民ノ生活等ニ主入ル意

(日本標準規格 B5)

0011

RA'-0003

0013

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

館第五号

昭和二十年九月七日

在館山終戦連絡委員長

林安

長

岡崎終戦連絡中央事務局長官殿

當地一般情況ニ関スル件

九月三日米陸軍部隊進駐以來當地ニ於ケル最近ノ一般狀勢左ノ通り御報告申進ス

(日本標準規格B5)

外務省

0013

上記

一 九月三日館山地区ニ進駐セル米陸軍部隊一箇聯隊ハ

總約四千(右ハ右方ニ要求セル洗濯物ノ交渉ヨリ偶々

明瞭トナリタルモノナリ)ナル處 裏ニ八月廿一日當地ニ

進駐シ来レル海兵隊ニ五名ハ 米陸軍先驅トシテ

当地ニ来レルモノニテ陸軍部隊ノ進駐ト交替シテ

横須賀ニ赴ケリ 陸軍部隊ハ海兵隊ニ比シ其ノ

態度紳士的ニシテ 交渉ハ極メテ円満ニ進行シ

ツヨリ 當事務局ノ苦心ヲ返スル所ハ寧ロ日本側

公信案一

外務省

(日本標準規格B5)

0014

RA'-0003

0014

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

謀議閣ノ能率ヲ擧ゲルコトニ存シ殊ニ法制上地方
 官憲ニ對シ命令ヲ發スル權限ナキ當地連絡委員會
 ノ立場ニ関シテ中央ニ於テ將來一般的ニ御配慮ヲ
 得ハ幸甚ト存スル次第ナリ（當地ハ御承知ノ通
 リ外務省側ガ委員長ノ地位ヲ占メ居ルヲ以テ尙
 連絡所ノ事務ハ多忙ナリ）
 二、米駐屯軍ノ關心事ハ武裝彈藥ノ押収兵費ノ
 西、岬鴨川ノ線ヲ越ズ線以北ニ撤退スルコトニ在ルハ

公 信 案 一

外 務 省

(日本標準規格 B5)

0015

勿論ナル處一方當地ニ復員ニ未レル元軍人ノ數
 (九月廿日現在安房部ニ於テ總數約二六〇三名)
 等ニ關シ思案ナル關心ヲ有シ居ルト共ニ他方米軍
 例ニ於テ軍兵ト警官トノ區別スル承知シ居ラズ
 警務官モ一種ノ軍人ナルヤノ見解ヲ持シ居ルモノモ
 相當多數ニ上リ居ルヲ以テ本案文ヲ軍人ト警務官
 トノ根本的差異ヲ詳細ニ説明シ置ケリ 尚又米軍進
 駐時館山市ニ於テ臨時憲兵總數八百名外ニ米軍

公 信 案 一

外 務 省

(日本標準規格 B5)

0016

RA'-0003

0015

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

公 信 案 一 外 務 省

百名ニ上リタルヲ以テ 米軍側ノ要求ニ依リ目下警官
ノ總數ハ約百名ニ制限セラレ居ルモ 前記ノ通り 本
委員ヨリ警務官ノ進級ヲ説明シ 其ノ増員方ヲ
申入レタルニ付 大體近ク正式ニ其ノ増員ヲ認^米ム
算大ナリ 以上
米軍方面ノ事情報告申進ス

(日本標準規格 B5)

0018

公 信 案 一 外 務 省

軍進駐者時 他方面ヨリ増援シ来タル警官ハ約六
更ニ本隊ノ当地警務官ノ定員ハ約六十名ナル處 米
米軍側ノ関心ノ希薄ニ在ルカラ 推察シ得ル次第ナリ
業方面ニ移動スベキ命令ヲ受ケタリ 右事實ニ鑑ミルモ
シメテ之ガ 右警兵ハ米軍側ノ要求ニ依リ 九月二日午
午名ヲ臨時警兵^{臨時}トシテ 西ノ岬鴨川ヲ経テ地区ニ配置セ
要^{又補助警兵ト見ル}求ニ來リ 又停駐後 房兵團ニ屬スル兵力約二
軍兵約百名ニ上ラシムヲ以テ 本隊ノ軍兵百名ノ減員方
ヲ存シ 其他ノ警兵

(日本標準規格 B5)

0017

RA'-0003

0015

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0003

0020

公 信 案 一

ヲ輸送ニ来クル米海軍輸送指揮官ロジャーズ
 (Commander Rodgers) ヨリ米艦船ノ安全ノ必要ヨリ
 左ノ三項ニ互ニ要示ヲナレタリ

(一) 日本側舟艇ニ其ノ種類ノ如何ヲ問ハズ米輸送船
 巡洋艦 駆逐艦ノ投錨箇所ヨリ壹千米以内
 ノ水域ニ入ラザルニト
 高投錨箇所ヲ壹千米以内於テ水泳ヲ禁ル
 (二) 米海軍ノ巡洋艦ニ米艦船ノ投錨附近ヲ
 巡視シ (一)ノ條件ヲ犯スモノヲ射撃スベシ

外 務 省

(日本標準規格 B5)

11.00.2-1

公 信 案 一

九月三日附貴長官宛^{（台信）} 中書佐才一ノ二聞レ
 甚^{（後和）}後ノ指況左記ノ通り訂正セシタリ

一 九月三日日本委員一ノ對レ米陸軍才八師約四千
 米軍側態度緩和ニ関スル件

岡崎終戦連絡中央事務局長官殿

林 安 之 印

昭和二十年九月七日
 在館山終戦連絡委員 貝 長

館山連 長之印

外 務 省

(日本標準規格 B5)

0019

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0019

公 信 案 一

三、米軍上陸地、傍近海岸に在る小舟は悉く除去し
米陸軍、上陸に對する障害ヲ除去スベシ

右三項之互に要する陸軍部隊、上陸ヲ完了スル時迄
輸送船、艦艇、鎮山灣ヲ出港セムヲ以テ九月五日
解除セシムル出漁可能トナリ

二、九月四日停車場郵便局等三數名、米側陸軍
憲兵ヲ配置スルニテ、軍政參謀課長ヨリ通告
シ奉ルニ處、郵便局ニ於テ、五日以後ハ、憲兵ハ、配置

外 務 省

0021

(日本標準規格 B5)

公 信 案 一

セシ居ラス

三、六日軍政參謀課長ト、談話内容ヲ通リ

(一) 市會、參事會ヲ開會シテ、差支レ但シ開會二日
前ニ豫告スベシ

(四) 八月廿日強制疎開ヲ命ゼラレシ者、其ノ家財
ヲ生活ノ必要ニ移動シテテ希望ヲ有スル者、且
疎開家屋ヲ再入申入ルニ處、同課長ハ
立退家屋ニ復歸セシメ生業ニ従事シ差支ナシ

外 務 省

0022

(日本標準規格 B5)

RA'-0003

0018

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

公 信 案 一

外 務 省

③ 釜山灣之定泊之小船(機帆船)ノ航行
 二関シテハ船舶責任者ノ司令部ニ出頭シ航行
 許可ノ申請ヲナスベク適切ト認定セラルルモノニ
 對シハ米海軍側ト連絡シ上横濱清水
 方面(米)可能ナルヤウ取計ラベレ
 以上米軍側ノ當方ニ對シ能心度後知方ニ関レ公
 才四号補足書カク報告申進ス

(日本標準規格 B5)

0023

A'100.2-1

九 月

日本政府陸軍聯合七總司令部宛電書

昭二〇.九.四

千葉縣釜山ニ派遣スルニ付地方連絡事務局長林幸男
 等ノ陸軍連絡中先事務局長官ニ對スル報告ニ依ル九月三日
 釜山ニ上陸スル米國陸軍指揮官カニガ(代將) (Brigadier
 General Cummings) 林氏ニ對シ別添ノ如キ命令ヲ
 手差トシ即時執行ヲ指令スル意ナリ右報告ノ添付ナル危險
 ト不審外ヲ確ニラフアリ

日本政府右ノ聯合七總司令部ノ警備ヲ含ム日本政府ノ隊
 能ク有線ニ依リ監視スルヲ一級方針ニ市備スルノミナラス一切ノ陸軍
 ヲ閉鎖スルカ如キ同氏ノ教育ト進歩ト見地ヨリ思ヒ難キコトナル
 莫ク指摘セラルベシ陸軍聯合七總司令部此ノ莫ク深甚ナル注
 意ヲ拂ヒ適當ナル措置ヲ左釜山米子陸軍指揮官ニ對シ發セ

ラニシトテ西中抄ス (一三)

外 務 省

(日本標準規格 B5)

0024

RA'-0003

0019

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

陸軍部一保

昭和二十年九月下半期

古



横須賀連絡委員会業務経過報告書

日向

A'1.00.2-1

海軍

0025

横須賀連絡委員会業務経過報告

第一

東久通総理大臣官令旨、基キ八月二十四日横須賀に設置せられたる
 終戦連絡委員会ハ、戸塚鎮守府司令長官ヲ委員長トシ其
 一業務ハ主トシテ米軍に依ル武器並ニ海軍施設ノ接收等海
 軍関係事務ノ處理ニアリタル爲メ其ノ概構ヲ横須賀鎮守府幕
 僚ヲ母体トシテ各有委員ヲ之ニ附隨セシメ居タル次第ナルガ聯合
 軍進駐シテ半々月ヲ経過シ武器並ニ海軍施設ノ接收ニ漸ク其ノ半
 了シ、他面勞務問題ノ始メトシテ一般民事々件ハ日ヲ逐テ増
 加シ九月十八日軍事部会委員山下冬潔第八軍連絡官トシテ
 一少佐ト會談ノ節トシヨリモ、シカラスルノ問題ハ、シカイリアレ、切
 替ヘタキ旨ノ要望アリ、委員会ノ處理事務ハ逐次軍事部会ヨ
 リ民事部会ニ移行スル情勢トナリソ、アルニ鑑ミ海軍側ニ於テモ

海軍

0026

RA'-0003

0020

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

連務事務

當委員會ノ態勢立直レノ必要ヲ認メ先ヅ軍事部會ニ於テ
担當シテ、アリテ勞務關係事務ヲ民事部會ニ移管スルニト、
ナリ九月二十一日山下參謀ヲ以テ井野視ニ引継テ了レタリ
尙米軍例ニ於テ元帝國海軍ノ解體進接スルニ隨ヒ凡スル完済
ノ相手ヲ本官ニ移シ度キ意向ヲ汲テ、債權問題ヲ手始メ、
物價問題、水道電氣瓦斯等施設ノ改修問題、勞務ノ
提供、押收物資ノ處分問題等直接又ハ本官ヲ通シテ各官
係者當局ニ之ガ處理解決ヲ要スルニ列リ委員會ニ於テ各官
須賀中丞、警務外各當局者ヲ叫令シテ本官ヲ中心ニ之ガ
處理ニ万全ヲ期シ、之ニ次第ナリ
今民事部會担當事務ノ全約ヲ概説スルニ
(一)南米米軍司令部ト直接連絡ニ關シテハ桑主林大佐 通譯
一名ト共、「シヨア、アラナイヤ」本部(旧領守司令部)内連絡

海軍

0027

勞務問題

官室ニ於テ之ガ衝ニ當リ居タル前記事務移管ニ伴ヒ九月二十
四日以降米軍例「トクシ」少佐及「マ」大尉外 名ニ對シ我方口
リハ佐藤(由己)領事及古澤官補書記生ヲ加ヘ桑主林大佐ハ
專ラ軍事問題、佐藤領事(古澤書記生輔佐)ハ民事問題、
佐々木連絡ノ任者ニトセリ
(二)次、勞務問題ハ現下彼我接觸面ニ於ケル最重要問題ノ一ニシテ我
國勞務者ノ技能、体力、訓練等ニ於テ米國勞務者ニ比シ懸
隔アリ病ノ兎爾米軍例ニ誤解ト不満ヲ醸成セシメ屢々困難ナル
事態ヲ惹起セシトスルノ危険スラ感セシムルニトアリ、當委員會
ニ於テハ本件關係事務ハ專ラ桑主井野視ヲシテ之ヲ担當セシメ、
海軍例ニ及警務例ノ協力ヲ得テ業者例トノ折衝、勞務ノ割
當及勞務ノ配備等問題ニ所ナカラシメント努力シ居ルニ本問題
ノ解決ハ決戦處理上一瞬ノ放逸モ允シ難キ緊要業務ニシテ

海軍

0028

RA'-0003

0021

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

一般民事
問題

本官モ日夜之が改善之碎心シテ、アル次第ナリ

(三) 米例ニ於テハ凡テ其ノ要求事項ニ對シテハ我方ノ具体的回答ヲ
要望シ居リ依テ委員會ニ於テハ字井事務官ヲシテ勞務關係以外
ノ一般民事事務ヲ担當セシメ、各府・市・銀行、警察及稅務署
其ノ他民間諸團體並ニ各方面トシテ連絡及接觸ニ當リ、米例要求
ノ回答ニ万全ヲ期スルト共ニ、米例ニ對シテ我方認可申請事項ノ迅
速ナル解決ヲ計リ、アリ、其ノ具體的事例トシテ一般民事ニ伴
中最近ニ於ケル、主ナルモノニ水道問題アリ

元來横須賀海軍水道施設ハ相模川上流ノ有馬、半原及走水ノ
三水源ニ依リ一日最大五六、五〇〇〇噸(内有馬三五、〇〇〇・半原二〇、〇〇〇・走水
一、五〇〇)ノ給水能力ヲ有シ居ルが縣今年ノ進路ニ因リ其ノ使用量
遠カニ増加セル爲メ冬配水地ノ貯水急激ニ減少シテ市例ニ於テハ
之ガ對策トシテ時間断水ヲ断行スルノ止ムナキニ到リタル如キ米例ニ於テハ

海軍

0029

之ニ對シ著シキ不満ノ意ヲ表明シ九月十六日横須賀市水道部

鈴木工事課長及南技師ヲ相致シテ緊急之ガ改修トシ給水一日二
万噸増進方ヲ命ジタルが徑事已ニ有馬水源ノ能力低減ニ因リ
全所要水量ニ對シ約一万噸ノ水量不足ヲ來スル居リタルモノニシテ
肯市ニ於テハ横濱市水道及神奈川縣水道ヨリ分水ヲ受ケテ之ヲ
テ之ガ補給ヲ爲シ來リタル次第ナルが震災及配水道ノ水源機能
ノ低減等ニ依リ右分水中止ノ状態トナリ不得已一日四時間乃至
六時間ノ断水ヲ行ヒ來リタル現況ニシテ、現施設ニ於テハ送水管各
ノ制限セリテ最早ヤ増進ハ不可能ナル状態ニシテ然レモ施設ノ新
築ニ於テハ増進ニ資材ノ不足トシ生産不能ニ因リ之ガ實施ハ到底
不可能ナルヲ以テ十七日鈴木及南技師ハ米軍司令部ニ出頭シ、
上記事情ヲ説明シ、僅カニ旧航海學校ト砲術學校間ノ配水管ノ一
部ヲ連結シテ給水ノ増加ヲ計リ得ル旨回答セル如キ米例係ルハ之ニ據

海軍

0030

RA'-0003

0022

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

通譯関係

ト迅速カニ左述諸工事ニ着手スベキ旨申出タルニ依リ市例ニ於テハ
 早速左工事ニ着手スベク米例ニ對シ資料運搬ノ為ナリト云フテ其
 向方要請シタルニ米例ニ於テ何等之ニ想スルコトナク二十日兩口録本
 工事保共ヲ取扱シテ本件ニ對スル具體的同意ヲ要ボレ談セルヲ以テ
 委員會ニ於テハ前記事情及一部配水管改修工事印刷ヲ文書ニ
 依リ報告セシムコトトシ九月二十三日米軍司令部ニ對シ本官名義
 ヲ以テ必要圖面ヲ添ヘ上記報告書(英文)ヲ提出セリ
 (四) 次ニ外務省臨時囑託トシテ高地ニ派遣セラルル通譯ハ聯合年進
 監青初東多部下中等學校英語教師ノ勳員ニ依ルニ十名ヲ
 令セ約六十名ニシテ米例要ボク甚キ各方面ニ令達セラルル次第
 ナルガ其ノ後勞務ノ需要増加ニ伴ヒ逐次増員ヲ余裁ナクセリ
 レ九月末日現在、於テハ約九十名ノ通譯者ヲ要スルニ到リ、委員
 會、副領事^{通譯}係官トシテ統制アル通譯團ヲ組織セシメ、彼等

海軍

0031

會社及
庶務

接觸面ノ円滑ヲ求ムルニ於テ、彼等ヲシテ我方最前線ノ要
 員ニシテ民族ノ代表者タルノ自覚ヲ促サシメ、自前自戒能ク終戦
 處理ノ責務ノ一端ヲ果サシメント努力シワ、アル次第ナリ
 (五) 現在委員會、會社事務ハ藤田主任中佐主任官トシテ經理ニ當
 リ、アリ事務局官制公布ノ上ハ本件事務ニ當リ本有例係
 官ニ移管セラルルベキモ不取敢本事務局ヲシテ令中佐ノ輔佐官ト
 シテ專ラ本有例係(通譯)手當等ヲ令中佐ノ支拂事務ヲ担當
 セシメ、居ル次第ナルガ事務局經費ハ賠償金問題ト相関聯シ、
 進駐軍ノ為メニ要スル支拂等ヲ令中佐、於テハ繁雜困難
 ナル問題ヲ予想セラルレ之カ態勢強化ハ眞、焦眉ノ急務ト思考
 セラル
 因ニ軍事並ニ民間ハズ編テ米例ヘノ公文書ハ英文ヲ正久トスル間
 係上翻譯事務ハ常ニ輔佐シ長官ノ補書並ニ副領事

海軍

0032

RA'-0003

0023

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

ヲ輔佐シテ能ク之ガ處理、音リフ、アルモ事務ノ能率増進ノ業務ノ
擴大、伴フ伴勢ノ強化、自目下研究中ナリ

第三、連絡會議(合報)

音手員會ノ部内連絡會議ハ任官第一班申進置ノ通三合會館
内事務所ニ設ケテ常務係ヲ中心ニ各者委員及縣、市、警察、
税務署、郵便局並ニ商團配電、交通公社等ノ各關係者召集
シテ議事ヲ進メ其ノ次第ナルガ民事關係事務ノ移管ニ伴
ヒ民事問題ニ付テハ字井事務官之ヲ司合スルコトナレリ

九月十六日以降提出セラルル主ナル問題ヲ摘述スルニ

一、九月十五日午後二時頃千葉ヲ横須賀へ鮮魚ヲ運搬中ノ漁船南
西丸(五噸)カ岩船碇泊地附近ニ近接セルヲ理由トシテ米例ニ拉致抑
留セラルル事件アリ右ニ對シ魚市場ノ役員ヨリ米例ニ對シ令船ノ

海軍

0033

釋放方願出タル処米例ニ於テ一方的ニ一般漁船ガ港内航行制限
區域ヨリ二分一哩ニ接近セル場合ハ之ヲ拿捕スルトノ事ニテ委員會
ハ一般漁業者ニ注意ヲ喚起スルト共ニ米例ニ交渉ノ結果南西
丸ハ十八日釋放セラルルモ本問題ハ影響有ル所東京湾内全地
區ニ及ビ然モ米例提出ノ漁船主ノ禁止區域ハ航行制限區域ヨ
リ遙カク廣ク範圍ニシテ凡ソ漁船ノ航行不能ノ状態トナルベキ付中央
ヨリ又我方希望ヲ申入中トノ事ナリガ九月二十四日米例回答ヲ俾
右禁止區域ハ航行制限區域ト略々同様ニシテ聊カ相遠ノ点アルモ
右ニ依リ大体通過路ヲ生シタル次第ナル旨海軍例ヨリ報告アリ
二十六日右ハ米例海軍ノ一、概斷行爲ニシテ結局航行制限區域
ニ一致スルコトナレリ

二、九月十六日字井事務官米字連絡官「トクシ」少佐ノ報告ニ應ジ米
軍司令官ヲ往訪セル処「トクシ」ハ(1)横須賀地区ノ物價日々高騰

海軍

0034

0024

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

一 傾向にあり右に何等其必要を認め難く依て一般物價を八月十五日現在、値段に復帰せしむる採取ハレキ旨申入アリ
 右に對し委員合ハ市及警察ヲテ對策ヲ講セシメ極力物價ノ高騰ヲ抑壓セシムルニ決定 (尚十八日付レシガ代特ヲ警察署長、新レ令様) 九月十九日日本官副領事ヲ帶同、トクシト少佐ヲ經訪セル際物價ニ對シ、銳意善処シ居ル旨申達セラルルハトクシトハ右努力ノ結果認ムルニ尚二三不良店アル旨告ヘタルハ本署ヨリ其ノ店名ヲ指示方申出スル處ニ店ヲ舉ゲタルハ警察署長ノ右處置方要求レ本問題ノ解決ヲ見ルヲ得タリ
 三、十五日二十三時頃武山海兵團倉庫ニ朝鮮人二名侵入セルヲ以テ係隊員出動捕縛セシトセル内一名ハ兇器ヲ有セシモノノ如ク俄然逆發シテ重傷ヲ負ハセ逃セシ趣ニテ家宅搜索ノ上殺ス所ヲ兇器ヲ押收セリ (警察例報告)

海軍

0035

尚市内ニ朝鮮人ノ女周旋詐偽事件アル趣ニテ委員合ハ警察署長ノ善處方要望
 在留朝鮮人ヨリ九月二十日午前十時山崎國民學校ニ於テ在日本朝鮮人聯盟ノ發會式ヲ舉行方願出ヲ許可セルニ事故ナカリ
 二 趣ナリ (警察例報告)
 四、十八日合報ニ於テ警察音局ヨリ左記報告アリ
 (一) 市民ノ軍刀、拳銃等ノ所持及賣買取締ニ關シテハ「ホスター」ヲ以テ揭示
 (二) 米軍ヨリ買入タル「タバコ」ハ專賣法違反トシテ沒收シ專賣局ニ收ムルニ依リ買入ヲ取締ルニ決定
 (三) 商人以外ノ物品販賣ハ果利取締法ニ依リ禁止
 五、保安隊ノ名稱ヲ士官以上ノ指揮スル所ハ地名ヲ採リ(例ハ「大船保安隊」) 下士官ノ指揮スル所ハ地名ト統轄士官名(例ハ「大船

海軍

0036

RA'-0003

0025

保安隊、森分派遣隊(如左)係捕スルコトナレリ(十七日保安隊報告)
 尚海軍保安隊ハ九月十九日附聯令年最吉司令部より命令依り
 十月三十一日限り解任スルコトナリ居ル処最近ノ活動状況如左
 (一)九月十四日邦人象園ヲ以テ通信學校倉庫ヲ襲ヒ衣類其ノ他ヲ
 盗マレト企テタルヲ保安隊中動之ヲ捕縛又ニ逃放セリ
 (二)武山地区ニ於ケル盜難事件ノ因ニ保安隊警察ト共ニ一部隊宛
 搜索ヲ為レル處莫大ナル物品ヲ押收セリ
 (三)海軍倉庫ヨリ物資流出スルヲ防止セカガ為メ軍務機密保持費
 規程ニ基キ、立札ヲ立シキヒ報告セリ
 六、九月十九日日本官副領事帯同トシテ一連路官方往訪ノ節トシテ
 一使用行ハレ居ル能率モ上ラザルニ付使用ヲ避ケラレテハ皆要ホアリ
 本官其ノ年終ノ向紀セル処十三、四歳ノ者有リト云フ且日本人ノ一般

海軍

0037

二 体魁傳小ニ付恐ラク十五歳以上ト想ハル、モ適宜措置スルベキ旨
 同答ニ置ケルカ本件ハ不取敢終察例ヲレテ業者ノ注意セシム
 ルコト、セリ
 尚其ノ際米例ヨリ、従来勞務開始ハ午前八時トナリ居タルモ二十日
 朝ヨリ七時開始トシテラシクタイム一時間ヲ除キ午後五時迄働カシ
 ムルコトニ決定セルヒ日通告アリ勞務者一般過勞トナルヲ一憂言ハセ
 ラレタルモ勞務者ノ集令避キト勤勞状態良好ナラザルヲ理由ト
 セルヲ以テ本官一怒之ヲ承セカ爾事通譯團モ之ニ同調
 セル結果毎朝五時半起床、六時半朝食、六時半出勤、午後五時
 半乃至六時半帰宅シ居ル次第ナリ
 七、九月十七日午後八時四十分發東京驛發久里濱行電車中
 二テ武者ノ半兵 武者ノ日本人ニ對シ進行中、キヤンカノ格闘ノ
 様子行ホヲ為セル事件アリ右ハ他ノ乗客多ク為發生セル

海軍

0038

RA'-0003

0025

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

十三、三浦半島ノ米軍管轄區域カ變更セラル。二十日米軍二二一砲兵大隊(ゴッパナリ少佐指揮下)半島ノ西部及南部ニ進駐ヲ開始シ、鎌倉、逗子、三崎各地ニ海軍施設ヲ接收(連務特報)。

十四、二十日夜大楠城固守隊ニ駐屯セルゴッパナリ少佐横須賀、鎌倉、葛葉山、三崎、南下馬、初瀬ノ各市町村長及警察署長ヲ招致シ管下ノ元陸海軍所有ノ衣料並ニ食糧ヲ各地方住民ノ所有ニ傳セシメ之ヲ住民ニ分配シ之キ旨布告(別紙附録一各照)尚右布告ヲ翻譯シ上ノ可及的速力ニ実行方命令セリ。

他方二十二日山下參謀(参員)横濱第八軍參謀ゴッパナリ少佐ヲ訪問シ元横須賀鎮守府所屬ノ三浦半島ノ米軍物資ハ右方ヨリ作量ノ十七萬、存兵並、救災者ニ配布シ之キ旨布告(別紙附録一)資ハ久里濱ノ海軍通信學校ニ搬入シ置キ之旨申入ルル知ゴッパナリ少佐至極結構ナル旨答ヘタルカ傳ヒテ南敵ニ力ヲ居ル物ハ連務カニ

海軍

0041

搬出スベキ旨申入タル知ゴッパナリ少佐ニテゴッパナリ少佐ニテ本件ニ関シテハ二十三日午前十時ヨリゴッパナリ少佐大尉兼座ノ上横須賀市役所ニ於テ固守隊兼司令打令會議ヲ開催シタルが大勢ハ海軍側ニ不利ナリシト本官トシテハ南方作量兵ノ食料、糧食、衣料ノ確保ヲモ亦考慮シ一事ト思惟セラル。兩者間ノ妥協点ヲ發見スベク努力セル次第ナルニ二十五日午前九時横濱市神奈川縣廳ニ於テ縣知事主催ノ米軍品處理ニ関スル打令會ヲ開催シ米軍第一軍團「アールト」少將ノ三浦半島全地域ヲ管下ノ糧食及衣料品ノ民間配給ニ関スル通告ニ付協議シ右ニ付テハ第八軍命令發令セラル。最後の決定ヲ見ルニ趣ナルニ之カ知令ハ「アールト」通告ニ依リハ令物資ハ一先縣知事ニ引渡シ之カ分配ニ關シテ日本例ニ依リハ先市町村長及地方事務所長ヲシテ警察署長ト連絡シ上九月中ニ其ノ報告ヲ調査報告セシメ、此ル

海軍

0042

RA'-0003

0028

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

後一般配給ノ途ヲ満ルルニ決定（但し内商販シカウシモノハ連
時慶介ニ由リ主食ノ配給ハ藝園ヲ通シテ為サレムトス）
高二十八日第八軍司令官「アイケルバーカ」中將命令（附録ニ奉呈）
加分配方針善シ方法ニ關シテハ從前ノ通告ト何等差ル所ナシ
十五、九月二十七日午前十時ニ浦半島各市中所村長及ニ浦地方
事務所長會合ノ上陸海軍係管品調査カスパーナリニ依リ
申入タル處書軍ヲ「シロ」ヲ提供シテ機雷學校、砲術學校
長井分校及武山海軍團ノ三箇所ノ兵器彈藥倉庫ヲ巡
査シ兵器彈藥以外ノ一般物資貯藏ノ防空壕内ハ自由
調査ヲ許可セラレタルニ付翌二十八日横須賀市ヨリ二十名、
津島市ヨリ二十名他ニ市ノ吏員一各調査員トシテ大楠機
關學校ニ赴キ調査ヲ開始シ機關學校、砲術學校及武山
海軍團ノ外部地域ニ之ヲ係属隊ニ依リテ右調査報告書ヲ

海軍

0043

作成一枚之ヲ内務大臣ニ提出セリ（市例報告）
十六、九月二十四日附縣令今年最高司令官指令二十九日傳達アリ
右ニ依リテ日本帝國政府ハ米第七軍、第八軍及第五艦隊
管下ニ於テ日本軍隊及施設並ニ附屬團體が所有シ又ハ作
戰ノ為ニ使用セラルル又ハ目的ヲ有セル兵器彈藥其ノ他一
切ノ物資ヲ所轄米軍ニ對シ連カニ引渡ラシムベキト、四兵
若シ処分ニ關シテハ小ナルモノハ之ヲ米本團ニ搬送シ、大ナルモノハ
破壊シ、火薬類ハ之ヲ海中ニ投棄シ、其ノ他ノ備品等ニシ
テ米軍ノ需要ヲ滿タレ得ルモノハ之ヲ充當シ殘リハ之ヲ肉
勝者ニ引渡シ民需ニ供スベキト
而テ右ハ肉勝者、陸海軍及米第八軍及第五艦隊派遣
員立會ノ上ニ之ヲ授受ヲ行フコト、高九指揮者ハ「シロ」ズ
少將ナル旨報告アリ（海軍例ヨリ）

海軍

0044

RA'-0003

0029

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

尚本件、同レ二十九日海軍省ヨリ委員派遣セラル横須賀入港中
 ノ第五艦隊司令部下打令セテ行ヒタルガ
 (一) 南方ヨリ帰國ノ兵員ニ對スル被服糧食等ハ内務省ヨリ
 渡セルモノヨリ分配支給スルコト
 (二) 内務省ハ最後ノ支給ヲ終ル迄之カ明細ナル出納調査ヲ作
 成シ置クコト
 (三) 兵器破壊ニ關シテハ復員軍人ヲ使用スルモ差支ナク
 (四) 兵器彈藥ノ引渡日期ハ十月二十日ナル旨
 通達セラルトシ、米艦隊司令官ヨリ右ハ相害困難ナル事業ナル
 モシテ、頼ムトノ激勵ノ言葉アリタル事ナリ
 右打令セ、際レ復員軍人ノ警察官ニ就任スルコトハ差支ナキコト
 及警察官ニ對スル武器ノ提供ハ概銃ヲ除キ承認セラルコトナリ
 十七、前二項ニ關シテ内務省ニ於テハ東京、大阪及横須賀ニ調査

海軍

0045

課ヲ設置シ第八軍管下ノ東京及第六軍管下ノ大阪ニ於
 テハ内務省及陸軍關係委員ヲシテ事務ヲ担當セシメ、第五
 艦隊管下ノ横須賀ニ於テハ内務省及海軍委員ヲ之ニ充
 ツルコト、ナルベキ旨報告(連絡巻保ナリ)
 十八、久里浜對階學校ヲ津市縣警察官養成所ニ使用
 スル旨、第八軍司令部ニ申請中、知九月二十九日之ヲ
 許可セラルコト(海軍側報告)
 十九、南米米軍側ニ於テハ押收物品(軍用品)處分ノ手段トシ
 テ之ヲ裁量務省ニ提供シ居リタル處、右ハ種々ノ弊害ヲ生
 セルヲ以テ九月二十七日以後ハ裁量務省ニ對シ物品ハ支給セザル
 コトトシ、右ニ依リ配給券ヲ一日一枚配手交シ之ヲ中後所ニ持
 去リテ物品ト交換セラルコトニ決定セル事(附録ニ参照)
 右ハ市側ニ連絡ナキ由ニテ、二十七日佐藤領事市役所ニ對

海軍

0046

RA'-0003

0030

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

キ指令セノ結果市例ニ於テハ右配給者ニ對シ毎日物ヲ提供スルコトハ到底不可能ニ付七枚ヲ單位トシ物品ヲ供給スルコトニ對シキ旨同答アリ

右ニ對シテハ市例ニ於テ尚然ト上トモ對策ヲ研究シテ重カレシ旨委員令ヲ要求

二十、終戦連絡中央事務局ヨリ進駐軍ノ為メノ經費ノ支拂方法ニ付通報アリタリケル旨並ニ其ノ内容ニ付報告(二十九日藤田主計中佐ヨリ)

二十一、近來警務者ノ素質著レク低下レ職場(米軍占領地区内)ニ於テ窃盜行爲多ク米軍例ニ於テ之憤激ニ居ル趣ヲ以テ青島員會ニ於テハ屬、警務者ノ指導教育ニ付青島員ノ注意ヲ喚起シ来リ先ニ九月二十六日米軍司令部内「ガ」ライ「オ」ス「ル」倉庫ヨリ毛布ヲ盜取セトセル警務者アリ右ハ米軍衛兵ニ依リ射

海軍

0047

殺セシ米軍例ヨリ其ノ死体引取方ヲ要求シ然レタニ付我方ヨリハ右警務者ノ遺族ノ慮ホシ述ベ之加善処方ヲ米例ニ申入ルニ先ニ二十八日「ケ」ツレ「ケ」外將警務者長ヲ招致シ米軍監視手簿ノ地区ニ日本人立入ヲ妨シ兎角事故ヲ起レ易キニ付取締ヲ徹底セシムル様高尚市盜ヲ為ス警務者ハ今後其等殺テテ射殺スベキ旨申渡セル旨警務當局ニ於テハ尤記ノ如キ報告ヲ發シ一般市民ノ注意ヲ喚起スルコトモ也リ即チ

進駐軍司令部ヨリ特別ノ指示アリタルヲ以テ市民ハ右記事項ヲ固ク守リ違反ナキ様希望ス

一、進駐軍警備占領地ニ不法侵入ヲ企ツルモノ又ハ過テ右地區ニ立入タル場合ハ射殺セラル、ニ付注意アリタリ
二、進駐軍ニ使用セシムル勤務者ニ對シテ窃盜行爲ヲ為クハ物

海軍

0048

A'1002-1

古内

横須賀須賀第一師

昭和二十年十月五日

在横須賀終戦連絡事務局連絡官

外務省参事官 高岡 禎一郎



終戦連絡中央事務局

總裁 児玉 謙次 殿

横須賀終戦連絡委員会参事報告一件

聯合軍横須賀上陸、對スル本件委員会設置経緯等、九月一日より十五日迄、期間に於ケル連絡委員会参事報告、別添一通進達ス

海軍

0050

サルトスルモノハ同時ニ射殺セラル、之ヲ注意アリタシ
三、海面航行禁止区域ニ立入ル者又ハ停泊艦艇ヨリ一千米以内ニ接近スルトヲ禁止ス
右違反者ハ拘留又ハ懲罰之處セラル、之ヲ特ニ注意セラルタシ

海軍

0049

RA'-0003

0032

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

員會ノ創設ニ参畫セリ

八月二十七日戸塚参員長ハ前日東京湾口ニ停泊中ノ聯合
國軍艦ニ連絡ノ為幕僚高崎参謀(別ニ通知特授一名)ヲ
派遣セルカ今日夕刻ニ参謀聯合國例要求事項(文書ニ依ル)
ヲ付参レテ帰還シ左回答ハ八月十三時三十分迄莫久ヲ以
テ為スベキ旨傳ヘタルニ参員會ハ小村参謀長以下総員徹
宵之カ翻譯ト準備ニ忙殺セリタリ
大要求旨左ノ如シ

一、日本軍隊ハ九月二日十八時迄ノ最小限度ノ必要人員ヲ残シ
テ區子、金澤ヲ結ブ線外ニ撤退スベキコト

二、軍事施設ハ迅速ニ指定通過點ニ引渡準備ヲ完了スベキコト

三、通譯凡参員會内ノ指定ノ員數及位置、配備レ置クコト

八月二十八日十三時三十分川相参謀副長竹宮中尉(通譯)ヲ帶同

海軍

0053

シテ聯合國艦隊ニ對シ米國側ニ對シ前日ノ回答文ヲ手交セリ
今日夕刻川相参謀副長ハ若干ノ注意書ヲ受領シテ帰來
セルカ其ノ要旨左ノ如シ

一、聯合國海軍ハ晨ニ提示セル約束ニ隨ヒ八月三十日横須賀地
區ニ上陸ヲ開始ス其ノ陸路ニ上ニ群集又ハ車輛ノ通行往
來ヲ禁止ス

二、聯合國空軍ハ上陸ニ先立ツ二十四時間内ニ飛行機上ヲ消
毒薬ヲ撒布スベク右ハ蚊其ノ他虫類ノ撲滅ニ有效ナルニ
ノニシテ撒布機ハ白煙ノ如キモノヲ成クベキニ市民ノ恐
スルニ及ハス

八月二十九日高嶺守司令官ハ聯合軍例ノ要求ニ基キ三ツ倉
館ニ移駐シ連絡参員會事務所ニ同様左ニ移駐セリ
尚今日日本有派遣ノ通譯三十五(全員東京都中警務員)兼着

海軍

0054

セリ以テ幕僚會議ヲ開催シ各者派遣員ト協議ノ上之ガ
配置ヲ定メ所要事項ニ付最後の打合せヲ為シ米軍上陸
對スル一切ノ準備ヲ完了セリ
因ニ本有派遣員ハ太田書記官連日停泊シ西山事務官及
長谷川属(官補書記官)ノ二名ニテ青島ノ事務ヲ処理シ居リタ
ル其後古川(官補書記官)同本中島兩屬及女子ヲトピスト
武名ヲ追加シ八月二十九日本官閣副領事ヲ帶同シテ東援
ニ鎮守府幹部トモ協議ノ上三十日上陸ニ備ヘタルガ事態ノ
推移ニ隨ヒ爾來引續キ青島ニ滞在、連絡並ニ事務ノ処理ヲ
統轄シ居ル次第ナリ

海軍

0055

第二 米軍上陸初期ニ於ケル動向
九月二十日午前十時ハルセ、米國第三艦隊司令長官代理
ハツゲヤール少將ハ海軍機橋ヲ上陸シ全機橋上ニ於テ戸塚横
須賀鎮守府司令長官ヨリ引渡書ヲ轉達ヲ受ケタリ
終ッテ午前十時半、米國海兵隊ノ一部ハ完壁ノ戦時武裝ヲ以
テ機橋ヲ上陸ヲ開始シタルガ先鋒隊ノ一部(十數名)ハ機橋
銃、小銃等ヲ擬シ、三皇會館内司令部事務室ニ侵入シ
某ヲ將校ニ云々シテ保管武器ノ存在ヲ確カメ案内役
タル横領幕僚留山參謀中佐ノ説明ニテ納得シ司令部ニ
向、兵數名ヲ獲レテ退室セルガ孰レニ興奮緊張ノ面持ナリ
ニ我方ノ態度極メテ平靜ニシテ何等興奮ノ色ナク紳士的應
付振リニ米國將兵之漸ク安堵セルモノ如シ
地方市内ニ於テハ米國側ヨリ上陸開始後公領指定地ニ附近

海軍

0056

0035

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

第三 連終會議 (連終委員會會報)

農：聯合軍進駐に伴い總理大臣官邸下、令旨、甚キ當
地：之塚鎮守府司令長官ヲ委員長トシ連終委員會ヲ
設置シタル次第ナルガ其ノ概略トシテ連終委員會ヲ
外務、内務、陸軍、大藏、農商、運輸及逓信ノ各府派遺
員ヲ配合シ、當初之ヲ總務部、對外部及對内部ノ三部、
大別シテ當面ノ事務処理ヲ計リ、其ノ後、大ニ總務部
會、連終部會及処理部會ノ三部會組織トシ各部會、幹事
長一名、幹事二名、委員及委員附屬員若干名ヲ置カントセルニ
決戰事務ノ處理上不便多ク、仍テ本官ノ提案、甚キ之ヲ
總務部會、軍事部會及民事部會ノ三部會、變更シ(別表
附録参照)一般軍事問題ハ川畑參謀副長ヲ幹事長トシ陸海
軍關係官、之ヲ以テ組織セル軍事部會ニ加テ、又民事會報

海軍

0059

ハ本官ヲ幹事長トシ民事部會ニ於テ是ニ處理スルニト
セリ、尚本委員會ハ決戰事務處理上直接關係ヲ有スル
橫須賀市役所、各警務署、各驛及郵便局、警備隊、電
氣逓信工務局、興行銀行支店、之浦地方事務所、東西交通
公社等ノ幹部、夫々事務ヲ專屬シ(附録ニ参照)、而テ連日
午後四時ヨリ至翌會館内事務室ニ會合シテ各方面ノ情報
及意見ノ交換ヲ爲シ事件ノ處理方針ヲ決定シ、アル次
第ナリ

本會報ニ附議セラルタル之ヲ摘述スルニ左ノ如シ

海軍

0060



昭和二十年九月前半期

(一) 九月一日午前、縣令軍時兵約一五〇名ハ小型自動車ニテ三浦半島各地ニ於テ武器弾薬ノ整理状況ヲ視察シ、我方ノ説明ヲ聴取シテ退去セル事件アリタルガ、令後九時上陸軍指揮官「ハツギ」少将ハ三塚中將ヲ招致シテ「上陸地ニ保安隊ノ教多キニト及冬地ニ武器弾薬ヲ置レテアリテ申告ト著シキ相違アル」旨申述ベテ不満ノ意ヲ表明シ、保安隊ノ配置圖ノ提出方要ホセル旨ハ塚長官ハ穩力ニ了承、旨回答シ翌二日朝、川畑若深副長兼軍司令部ヲ往訪回答、結果漸ク釋然トセル趣ナリ

要スルニ、我方ノ公正ナル措置ニモ拘ラズ、米側ハ未ダ若シク身邊ノ危険ヲ危懼シ居ルモノノ如シ（海軍側報告）

（尚係米隊一五〇名ヲ撤シ解散ノ途ニトナリ居レリ）

海軍

0061

(二) 前項米兵ニ依ル危険及窃盗事件ニ對シテハ米國例ニ於テ之遺憾ノ意ヲ表明シ速時之ヲ解決ヲ求ムルノ減意ヲ示レ、事々々々ニ我々方ノ證據不十分ニシテ且時間ノ経過著シキ為メ調査困難ナル趣ヲ以テ二日朝「ビ」中佐横須賀警務署長ヲ訪問シ「不祥事件發生ノ場合ハ（ハ）米側架設ノ電線ヲ利用シテ速時米軍官憲兵隊本部ニ通報シト（ハ）證據ヲ確實ニ擷メ置クニト（ハ）憲兵（M.P.）ヲ適宜配置スベキニ付利用ヲ清クシ且申出アリタリ（警務側報告）

(三) 旧鎮守府司令部令派込玄國勸（白ラ九例）事務室ニ米國例連續教育當時勤務シ各種事件ノ受付ヲ開始スルニ日米例ヲ通報アリタリ（連續將校報告）

(四) 横須賀市外ニ於ケル發生事件

(ハ) 九月一日午後深澤地ニ工員宿舍ニ米陸兵一五〇名、二日朝三〇〇名

海軍

0062

RA'-0003

0038

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

事り合宿舎ヲ占拠セリ尚引續増員上今廿五〇名トナル見込
 四) 一日午後半陸軍大尉外兵四〇名鎌倉警務署ニ事り二千名
 一宿舎全軒ノ準備方要求
 八) 一日半陸兵五名砲兵警務署ニ事り廊ヲ破壊シテ侵入シ合宿内ヲ
 限ナク搜索
 二) 一日夜土時半兵五名池上工員宿舎ニ事り工員ヲ腕時計ヲ
 搜索シテ思去
 五) 横須賀市民ニシテ聯合軍兵士ニ對シ物品ヲ贈與シ或ハ金銭
 飲食ヲ容認シ居ルモノアル者ハ事兵ヲシテ個人ノ權利ヲ侵害ス
 ルノ悪弊ヲ助長セシメ影響スルヲ極力大ナルニテ警務署及
 市警署ヲシテ市民ニ對シ之等悪弊ヲ禁制セシムルコトニ
 派帖(市当局トシテ同覽板ヲ利用スル事ヲ指示)
 六) 九月一日ノ戸塚長官ニ對スル米例申入ニ對シ回答ノ爲ニ日

海軍

0063

朝川畑參謀副長事軍司令部ヲ訪問シテケレメント代將官ヲ轄
 地域ニ於ケル我方係軍隊軍兵、警察ノ現有兵力及配備状
 況ニ古ノ通説明シ
 保安隊 九三〇名、常備兵 二七四名、警察官 七九六名
 其ノ武装ニ對シテの拳銃及「サーベル」之限定ハ但レ以上ノ武器ナキニ
 一ハ小銃ノ携帶ヲ許スルトシテ解テ得本同頭ノ解決ヲ見タリ
 次ニ押収軍刀ノ返還方、同レ「マツクアサー」司令部ニ於テハ此島ノ
 経路ニ鑑ミ「軍刀」武器ナリトノ解決ヲ下レ居リ「ケレ」トシテ外將官
 地域内ノ軍人所有ノ軍刀ニ總テ氏名ヲ附シテ提出スベキ旨ノ指令ア
 リ(但レ短銃(短銃)尚一般市民ノ所持セル刀劍ハ鑑定中トノコトナリ
 九) 九軍刀ハ九月四日一括引渡シテ完了セシムル事
 尚九月七日軍人所有ノ長銃ニ付ストレトモ、提出コトニ決定、各持
 手續ヲ了セリ(海軍例銀券)

海軍

0064

RA'-0003

0039

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

(七) 九月三日合報に於て「米例」に於て「近々一日約五〇〇名ノ艦隊水兵ヲ上陸せしめん事」云々トテ青島ノ治安維持上巡邏(S.P)及檢査員(M.P)ヲ適宜配置スルニキテ「我々」中及警務例に於て之に對シテ「策トシテ特殊經營施設ノ連カナル設置ヲ要望」云々トシテ「友」之關係ニ元工廠員坂巻和一等ノ「道案内」ヲ計劃シ、友實施設方願出居ルニ付「警務施設」セシメ度キ旨控案アリ(可決)

二日午後九時頃青島市南浦ノ飲酒屋ニ米兵十餘名遊興ノ定休、現ハレシ事情事件アリ、旧米浦及船渠兩遊廊ヲ修理、上米兵ノ爲メ開業セシムルト、内定セル如ク深夜遊泊艦艇アリ、脱走水兵ノ各地ニ上陸、遊興ノ後帰艦スルモノアリ、五日夕刻海兵隊士官以下若干名憲兵隊ニ來リ、各浦地区ヲ監視セルガ、九月十日ヨリ米海軍兵員五〇〇名上陸ヲ開始シ市内ヲ自由散策、更ニ十二日ヨリ八時兵約二千名午前十一時ヨリ(兵員五〇〇名)午後五時半迄(兵員五〇〇名)

海軍

0065

五時迄)上陸ヲ許可スルコトニ決定シ十二日「ケツシレカ」代將(シヨア、アウカイヤイノ指揮官)ノ名ニ於テ上陸兵ノ服装、行動、使用貨幣等其ノ他上陸全般ニ關スル心得發令セラルタリ(附録三參照)

右ノ件ニ米軍司令部ニ於テハ午前八時ヨリM.Pヲシテ日本警察官ト共同ニ市中ヲ巡邏セシメ度キ旨申出アリ尚九ハ晝間ノミナラズ夜間ニ其同巡邏スルコトニ決定シ、地方九月八日ヨリM.Pヲ發給本署ニ四名、市中内派兵以テ所ニ夫々二名宛振込警備シツアリ

(八) 二日十四時頃「ニミツ」元帥ニ由テ通譯ヲ帶同 鎌倉海濱、ホーンニ來リ「高級將校用」カ「指定」スルキ旨並ニ「區子、葉山地区」ニ「マツラアサ」元帥ニ別紙ヲホメ居ル旨申述ヘ居ルヲ「報

(四) 二日武山海兵團附近ニ女子拉致事件アリ二名ノ被害者ヲ生シ連時米例、通報

(三) 二日乃至五日海軍地区外ニ於テ自動車、「トコ」三輪車等ノ

海軍

0066

RA'-0003

0040

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

盗難事件アリ 尚銀砲兵學校より殺虫劑十四、五本ヲ掠奪
 (一) 五日正午頃片瀬ニテ鶏一羽、鶏卵十個ヲ購入ノ上、十月五拂
 ヒテ去リタル事告アリ (前章トモ連時知悉セル旨報告)
 (二) 六日朝米古官警署着、米リ「衣笠」方面ニ降伏兵アリ、
 現場ヲ確メ衣笠ト申入リタル処、檢査ノ結果右ハ洗濯物
 ヲ白旗ト強忍セルモノト判明 (九ニ依リ若例ニテ連日死行被
 二テ地上ノ変化ヲ偵察スルルコト判明セリ)
 (三) 衣笠方面ニテ日本人トシテ五月札又ハ十月札ヲ出シ米兵、煙草、菓
 子等ノ賣却ヲ怒願シ居ルモノアリ 又懸念所ヲ案内シテ米兵ヨリ
 金銭ヲ受取り居ルモノアリ
 六日夜半赤浦方面ニテ米兵ト散策中、兩婦通行中、日本人ニ
 白ヒ「日本官ハ戦争ニ敗レタルモノヨリ今後ハ米人ヲ相手トシ日本人ヲ
 相手トセバト放言セリ (以上警署側報告)

海軍

0067

(九) 朝鮮人ノ動向
 終戦後音地在任朝鮮人ノ員数多キト物ヲ不特ニ記録ナル動キ
 ヲ見セ居ルカ、米軍進駐ニ對シ裏面ニ作ヲ行フモノアリ 五日夜
 赤浦地ニテ朝鮮人十數名カ米兵ト交戦シ日本人ヲ讞傍シ居ル
 ヲ見タリ 警署告アリ 高台方面朝鮮人ハ米兵ニ近接シテ酒ト
 煙草ヲ物ニ交換シ居ル旨報告アリ
 九月十三日横須賀市内赤浦館ニテ朝鮮人ノ結成ニ成ニ集會シ、
 開會方願出アリ 会象約三十九トノトニテ警署トシテモ穩便ニ
 許可セル次第ナルモノヲ想ヒ及レシヨリ四百名ノ朝鮮人集會セル旨連時
 解散ヲ命令シタリ (警署側報告)
 高台ニシテハ時時時時横須賀ニ於テハ朝鮮人多數取會令
 ンテ米司令部ニ直訴スルモノアルモノ、左ハ米軍當局トシテハ何等
 聞知スルモノニ在ラズ 唯日本側ニ於テ朝鮮人ノ集會ヲ許可シタル場

海軍

0068

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0041

今ハ半年例へ通告サレテ旨ノ申入アリタリ(海軍例報告)

(十) 米軍使用ノ貨幣付テハ「マツアサー」司令部ノ意向トシテ
 「原則トシテ日本内ヲ使用スベク但シ考慮内ノ米軍ヲ用意シ居
 ルニ付大類支ケ使用スベキ」趣ナル知大藏省者焉トシテハ左ハ
 至急同收スルニトシ決定。細目ハ横濱ニ於テ協議ノ上之交換率ハ
 一弗ニ四圓五錢替。米軍ハ青價替ト決定ノ旨ヲ旨報告アリ
 然ルニ市内一部ニ於テハ米軍土産品ヲ買ヒ一弗ニ付十五圓ノ率ニテ
 支拂ヒ居ル旨警察例ヲ報告アリ

左ニ因シ七日「クレメント」代將ヨリ「塚長官」宛書面ヲ以テ「弗ト内ノ
 比率ヲ毎日新聞等ニ一弗ニ付四圓五錢替トアルニ左ニ付日米
 間ニ未ダ取極ナキニ付一般ニ傳達セシム旨ノ申入アリ

本件ニ因リ横濱ヨリ「朝海経済課長」出テ「求大閣」至青價
 セルカ九月十二日ノミテ上陸米軍ノ横須賀市内銀行ニテ兩替

海軍

0069

ヲ為シタル金額九千圓ノ達シ居リ他面「ケワシ」代將ハ十四日
 「弗及内ノ比率ハ一弗ニ付十五圓替ヲ施行スベキニトシ、並ニ左ノ米軍
 第三艦隊司令長官「命令」トシテ徹底セシム旨嚴達シ

横濱市「米軍」使用禁止令ニ依リ本問題ハ簡單ニ解決
 スルヲ得タリ

(土) 米軍ノ土産物買上ノ間ニテハ市内所ニ俄商人ヲ放出シテ
 如何ハシキ物品ヲ賣リ或ハ法外ノ値段ヲ附シテ暴利ヲ貪リ
 居ルニ付左ニ付米軍司令部ヨリ之抗議ノ申入アリタリニ付
 員令ハ市例ニ於テ素人商人ヲ一掃スル共ニ誰人形又ニ五月
 人形等ノ不用品在庫品ヲ有償ニテ買上ケ指定地ニ又ハ之ニテ
 之ヲ賣ル旨決定セリ

(土) 九月五日以後、^{海軍}海軍地ニ外事件トシテ

(イ) 吉倉帝國海軍家族共勵會庫ニ英國陸戰隊員侵入シ

海軍

0070

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0042

「ミシシ」二十名、棉枝若干ヲ採奪
 四 米軍兵員ニテ煙草四〇、雜誌五〇、砂糖五〇(各)ヲ佐野
 所民ニ賣却スルモノナリ(煙草一箱五円、雜誌一冊十円、砂糖一箱
 十月)

(ハ) 七日ソノ縣武官日吉宿舎ニテ、事ヲ日本法ニテ倉控甚ク他ノ事
 情ヲ詳細訊問シテ立去リタル日(以上一報報号)

(ニ) 横須賀驛構内ニ米兵侵入シテ貨車ヲ「ヒール」ヲ採奪スル事
 屬ニナル旨報告アリ(右ハ市ヲ「抗敵」ヲ採奪スル事ト決定)

(十四) 米軍側ニ於テハ日曜ニ平日通執務(執務時間午前八時ヨリ午後
 五時迄)ストノストニテ委員會ニ於テハ午前七時ヨリ午後七時迄
 行儀ノ整勢ニテ、右時間外ノ連絡方法ヲモ決定セリ

海軍

0071

(十五) 米軍司令部附「スローター」中尉委員會ヲ某訪「高級將校宿
 舎」使用人十八名(内園丁一名及「コウ」一名)ノ控供ニ方申出アリ
 依テ市例ニテ物色ノ上、日當五月乃至七月、週拂ヒトシテ契約成
 立シ五日走々左宿舎ニ送込メタリ(市例報号)

(十六) 七日米軍司令部連絡將校某訪「ハルセ」大將ノ傳令トシテ「無
 用」モノ司令部ニ出入シ事務ノ妨碍ヲ爲スニ任取停メシ事申出ヒ日
 申出ヅ(右ハ固本某トテ數日某司令部ニ用聽ニ事ヲ居ル事ナリ)

(十七) 九日拂曉横須賀市内ニ火災アリ米軍兵士ノ協力消火ニ依リ
 延焼ヲ最小範圍ニ止メ得タルニ任川畑冬謀別長ヨリ文書ヲ以テ
 謝意ヲ表明シ米側ニ於テモ好感ヲ以テ懇接セル事ナリ(海軍側報号)

(十八) 吉布市ニ對シ洗滌引受方米側要求、甚キ調査ノ結果市市内洗
 滌業者中概概ノ設備ヲ有スルモノ九名アリ、石炭、曹達ハ先
 括トシテ一夏服上下六円、作業服及防着服四円、ワイシャツ二円

海軍

0072

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0043

毛布、敷布二四、タオル、アタッシュヤツ及パンツ、靴下等五十銭
迄之後四日付位にて完成ノ見込ナル趣、自委員会トシテハ
右九名引受居支ナキ旨通告セリ

(十九) 市ノ米軍ノ令領セシ海兵團内汚物清掃方ヲ清負ヘル處
清掃樽二万樽ヲ要スル病メ米側ニ九控供方交渉セシ結果
船ニテ運搬スベキ旨命セラレタルニ付海軍内火繼ノ借用方
申入送キタル旨報告アリ(方例、於テ解決)

(二十) 海軍管轄地区外ニ發生セル軍事關係外ノ一般不潔事件ハ
横浜地方連務事務局ヲ通シテ第八軍ニ申入ヲ為スニトシ決定
シ十日午後首委員会委員四名(松永英保、芦川神彦、島事務長
岡副任事、古澤下補書長)横浜ニ出張シ鈴木鐵樹ト打合せヲ
遂ゲタリ、尚地区外軍事關係、自テハ横浜録日機園ヲ通
シテ第八軍ニ申入ルベキ了解ニ成立セリ

海軍

0073

(二十一) 九月七日一〇噸以下ノ小望船舶ト雖モ東京湾内航行ヲ
停止セシメラレタルガ九月十一日湾内航行禁止令ハ条件附(即
一新制限區域ヲ設ケテ)ニテ全般的ニ解除セラレタル旨横浜連
務事務局ヲ通報アリタルニ付十二日首委員会ヲ自委員横浜
ニ出張シ九制限區域通告原文岩室ニ圖面ヲ受領シ之ヲ
委員会ニ報告セリ

(二十二) 九月十日以後ノ事件トシテ
近時横須賀市内外ニ於テ米兵ト物ニ交換ヲ為シ居ルモノ多ク
(イ) 四一七一瓶ト米軍差押ノ米俵ト交換シ居ルモノアリ又
(ロ) 兎壺ニシテ十月札ニテ米俵ヲ煙草、キヤン、ノ交換ヲ乞フモノアリ
(ハ) 大船附近ニテ黒人兵婦女子、煙草、菓子類ヲ販賣シ居タル由
(ニ) 三崎地方、米軍米俵ヲ積載シ積載レ事ヲ附近住民ニ對シ
指輪、人形等ト交換方申入タル事案アリ

海軍

0074

0044

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

(兩) 武山海島方面にテビル人形等ヲ捕獲セルヲ抑收米ヲ導ハ
居ル米島アリ

(ハ) 邊見町吉倉古領地已歩哨ニ對シ家庭用ビルヲ一本控置スル
モノニ限リ通門ヲ許シ令地倉庫ヨリ衣料品ヲ拵去サシメタル事
仲アリ(九月八日日本人約百十名アリタル報ナリ)

(ト) 九日午後八時頃海軍分所近ニテ海軍自勤奉一名盜難ニ逢
ヒタルニ連時M、Pト連絡シ上十日並事一取戻スヲ得タリ

(三十三) 十四日午後「ケツレシカ」外將ヨリ「市内に於テ制服ノ警察官及
官吏に米拵枝ニ對シ教護ヲ爲スベキ旨命令アリ尚「九」官行
セザルモノハ嚴罰ニ処スベキ旨所言セシ報ナリ(海軍報告)

九ニ關シテハ種々意見ハ生ズベキモ國際法又ハ慣例ヲ指ニ取リ
テ事ヲベキトアリ不官口總便ニ措置スルニト事官ナリトノ事
見ニ賛成者多ク警察官ノ教護ヲ實施スルニト決定セリ

海軍

0075

(三十四) 上陸米島ノ慰安施設トシテハ晝夜之船遊部及旧赤浦

遊廊ヲ「赤浦」ハ「ス」トシテ開業セシメタル處酌婦ニ花柳病多ク

キ有メト稱レ米例ニ於テ九月十四日ヨリ兵員ノ出入ヲ禁止スル
ニトナリ警署者、於テハ警業繼續困難トナリシニナリ不官口

市内ノ治安ニ大ニ不喜ヲ生ズルニ到リタリ爲メ檢査、淫射
其ノ他衛生設備ノ強化等ヲ謀ルトモ、他面「ビアビル」又ハ建

物施設等ノ娛樂撤消ノ設置方拵去アリタル又「赤浦」中ニ
於テ「ビル」ノ警署啓用「スト」ラレ無キニナリ不我方ノ拵者ナ

ル施設ヨリ官口米例ニ任カスベキトノ意見一致セリ
(三十五) 九月中旬以東海軍保安隊ノ減員ニ伴フ監視手薄ニ重シ

海軍保有品ノ盜難多キ傾向ニ在リ

(ハ) 十三日由重保隊倉庫ニ五十五名ノ民衆侵入セリトセルヲ
保安隊發見、内ニ九名ヲ捕縛セリ(保安隊報告)

海軍

0076

(四) 十四日夜、本古施ノ海軍倉庫ニ侵入セル窃盗犯人ヲ捕縛
 一 上軍法會派ニ付スベキ旨報告
 (三十名) 九月十五日現在ニ於テ警備隊員ハ更ニ二〇〇名ノ減員
 二 其ノ勢力僅カニ二六〇名トナリ居リ保安隊及警備隊
 一 減員ノ伴ニ市中内務警察官ノ増員ト絶對ニ要メト、ナル
 へキニ力ニ付スル今後ノ見込如何トノ質問ニ對シ、青市警
 察側トシテハ、警察官ノ増員ト願フ向ハ、魚眉ノ急務ト
 思考セラルルニ復員軍人ノ採用モ未ダ決メシカズ、明春
 三、四月頃迄ニハ現在ノ約式信ノ員數トナル見込ナリ(警
 察署共同答)

海軍

0077

第四 外務省派遣員
 半軍上陸ニ對スル準備期間、於テ活躍セル西山事務官ハ九月
 一日以降本省政務局ニ勤務スルコトナリ、右後任トシテ宇井事
 務官ニ奉命シ、尚九月四日鈴木囑託、十四日日本多島ヲ加ヘ
 九月十五日現在、於テ陣営右ノ如シ
 参事官 高岡 頼一郎
 事務官 宇井 儀一
 副領事 関 興吉
 属 本多 信壽
 長谷川 孝昭
 古澤 一男
 鈴木 藤藏
 囑託 中島 董
 中島 董

海軍

0078

0046

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

A11002-1

<p>機密横須事第一五號</p> <p>昭和二十年十一月二十三日</p> <p>終戰連絡横須賀事務局 高 尚 禎 一郎</p> <p>終戰連絡中央事務局 總裁 玉 謙 次 殿</p> <p>終戰連絡横須賀事務局業務報告進達ノ件</p> <p>昭和二十年九月末迄ノ本件報告ハ機密横須事第一號ヲ以テ申進置キタル</p> <p>處十月全期ニ於ケル本件報告別添ノ進達ニ御査閲相成度</p>									
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0080

終戰連絡局長の
事務用
海軍
局長



海軍

<p>機密横須事第一五號</p> <p>昭和二十年十一月二十三日</p> <p>終戰連絡横須賀事務局 高 尚 禎 一郎</p> <p>終戰連絡中央事務局 總裁 玉 謙 次 殿</p> <p>終戰連絡横須賀事務局業務報告進達ノ件</p> <p>昭和二十年九月末迄ノ本件報告ハ機密横須事第一號ヲ以テ申進置キタル</p> <p>處十月全期ニ於ケル本件報告別添ノ進達ニ御査閲相成度</p>									
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0079

外務省
事務
横山
リリ

海軍

RA'-0003

0047

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

昭和二十年十月

終戦連終横須賀事務局業務報告

海軍

0081

終戦連終横須賀事務局業務報告

第一、終戦連終地方事務局ノ開設
 昭和二十年十月一日勅令第五五〇號ヲ以テ終戦連終事務局ノ官制
 改正公布セラルルニ十月十日右官制第二條ニ基キ外務省告示第一
 五號ヲ以テ横須賀市ニ終戦連終地方事務局ノ開設セラルルニ終戦連
 終横須賀事務局ト呼稱セラルルニトナリ、本官之ガ事務局長ニ
 任命セラルルニ次第ナルニ、爾來横須賀終戦連終事務局ハ横須
 賀鎮守府司令長官ヲ以テ事務局長ニ充テラレ居タルガ其ノ實質
 ハ漸次海軍側ヲ各者委員ニ事務ヲ担當ヲ移讓セラルルニアリシニ
 第ニレテ十月二十日戸塚中將連終事務局委員會議長ヲ辭任シ右ニ
 伴ヒ鎮守府幕僚並ニ關係官一同久里濱旧通信學校ニ移駐シ、海
 軍側ヨリ川畑參謀副長(少將)、泉大佐、久馬及藤田(主計)中佐並ニ
 山内主計大尉ノ五名、他、陸軍側ヨリ塚田大佐、青事務局ニ殘留スル

海軍

0082

RA'-0003

0048

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

コトナリ右ノ運輸省ヨリ支武書記官及黒田事務官ノ兼任
 (連任官トシテ)ヲ得テ茲ニ新ナル役是ヲ見ルニ到リタル次第ナリ
 依テ本官ハ十月二十五日公文ヲ以テ左記關係者者ノ對シ前記
 地方事務局長ノ開設ト本官事務局長就任ノ旨ヲ通告スルト共ニ
 各員合規程ノ先例ノ慣ヒ當事務局長ノ事務ヲ專囑セリ

記

横須賀市助役	加藤木	保次
市総務部長	松本	烈
市経済部長	羽生	健次
市土木部長	大村	四郎
市水道部長	祿田	貞美
神奈川県横須賀土木出張所長	長谷川	正勝
横須賀警察署長	山本	園士

海軍

0083

横須賀警察署長	松尾	久一
警部補	中村	美
横須賀驛長	山本	義夫
神奈川県南支横須賀支部長	松田	徳太郎
支支部事務長	手島	三郎
横濱興信銀行横須賀支店長	巖野	可明(日銀代理店)
日本交通公社横須賀事務所長	三宅	侃二
横須賀海仁會病院長	長谷川	静一
横須賀稅務署長	金子	五郎
横須賀郵便局長	石井	新藏
横須賀電話工務局長	北園	良雄
関東配電神奈川県支店長	角田	孝太郎
横須賀營業所長	洋津	直四郎
横須賀國民勤勞勸奨所長		

海軍

0084

0049

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

専賣局横須賀出張所長 菅沼 要
 神奈川県三浦地方事務所長 浜谷 寛吾
 船舶運賃会横須賀出張所長 和田 金五郎

因、外務省側連絡官並、職員ハ左ノ通
 陸軍連絡横須賀事務所長 高田 禎一郎

連絡官	佐藤 由巳
令	宇井 儀一
令	笠井 重雄
令	関 興吉
令	秋山 孝
令	本多 信壽
連絡官補	長谷川 孝昭

海軍

0085

連絡官補	古澤 一男
官補書記生	岩間 龍夫
嘱託	鈴木 藤藏
令	中島 薫
令	内田 勇 (十月九日採用)
令	山田 孫次郎 (十月二十五日採用)
令	堀江 生藏
令	横山 三郎

(考略) 未詳

前記概構ノ切替、依ル事務局ノ業務ハ概テ委員會當時ノ体系ヲ踏襲スルニト、セルガ、軍事問題ニ関レテハ前述ニ及ビ、陸海軍或官之加害等ノ當リ、民事問題ニ関レテハ旧民事部会職員及運輸厚生両省連絡官ヲシテ之ヲ担当セシメ又庶務及会計ニ関レテ

海軍

0086

0050

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

八月十七日庶務一級ヲ木村主任大尉ヨリ、十九日倉本事務ヲ藤田主任中佐ヨリ、支々引継テ、本有側職員ヲシテ之ヲ管掌セシムルコトナレリ

尚九月末米國第三艦隊歸國シ第五艦隊旗艦「ニュービー」ヲ横須賀、軍艦シ普港ヲ根據地ト定メタルニ依リ、海軍ニ於テハ武器彈藥、軍需品及海軍諸施設、引渡シ、陸シ第五艦隊ト連絡ノ為メ十月一日矢野少将ヲ板間長トスル連終板間ヲ開設シ、省事務局(當時委員會)廳舎内ニ事務所ヲ置キ、十月三日矢野板間長(實松大佐以下五名)輔佐官及職員ト共ニ、事務執務ヲ開始セルガ、右ニ對シ内務省ヨリ井上書記官、坂東事務官及属官一名調査部派遣員トシテ之ニ参加セリ

海軍

0087

第二、勞務問題

進駐軍ニ對シテ勞務ノ供給ハ「ボツカム」宣言履行上重要ナル要素トシテ、聯合國最高司令官指令第二號四、明示セケルモノニシテ本問題、付テハ各地ニ於テ數多困難ナル事態ヲ招来シ居ル趣ナルガ當地方ニ於テ之種々煩雜ナル事件ノ發生ヲ見居ル次第ナル處其ノ主タルモノヲ列擧スレバ

- (一) 勞務者ノ出勤員數ノ不足
 - (二) 勞務者ノ怠慢及竊盜行為
 - (三) 繼續事業ニ關スル勞務者ノ顔面ノ變更
 - (四) 雨天其他荒天日ニ於ケル出勤率ノ激減
 - (五) 勞務者ノ賃銀ノ支拂問題
 - (六) 少年及老年者ノ勞務從事
- 右(一)及(二)ニ關シテハ九月中旬以末米側指揮官ヨリ本官並ニ警務署

海軍

0088

長に對し其の態度不滿ヲ表明シ我方の善處方ヲ強要セルが十月
一日ケツレシテ、代將ハ山本警務局長ヲ招致シ労働者カ常ニ
未例要求數ニ満たサルニ及ビ「セイムメン・セイムジョブス」(Same men
same jobs)ノ主旨ヲ徹底セムベキコトヲ命ジ右解決不可能ナル
ニ於テハ新因タル措置ヲ執ルベキ旨言明セリ
警務當局トシテ之ガ對策トシテ労働者ノ斡旋及統制ハ勤勞勸
員着、於テ之ヲ担當アリ、又キビ目希治スレ又労働者ノ監督ノ設置
等ヲ考慮セルニ結局労働清負業者ノ責任、於テ之ガ解決ヲ求
ルコトニ決定シ労働者ノ怠慢、對スル警務ノ取締ヲ強化セシメ其ノ後
事態ハ漸ク好転シ偶、十月四日荒天、於ケル火藥投棄作業中海
上ニ於テ爆發事故發生シ四十四名ノ遭難者ヲ出ダシ(死者及行衛
不収三十五名、重傷九名)内本者臨時囑託通譯二名ハ重傷
ヲ負ヒ九死一生ヲ得タル次第ニシテ半例、於テ右犠牲者ニ對シ

海軍

0089

深甚ナル同情ヲ表明シ委員會、於テ労働者災害扶助法ノ適
用方ニ作研究スルニト、セルが九月下旬以來荒天屢、レテ労働者ノ
出席數ノ激減ヲ見タルニ半例、於テ右半例雨衣ノ提供ヲ考慮ス
ル等同情的態度ヲ示シ来タレリ
然ルニ他面勞銀ノ高騰ト需要ノ増大ニ伴ヒ労働者中ニ少年乃至
老年者ヲ交フル傾向著シク十月二十七日ケツレシテ代將本官ヲ招致シ
労働者ノ供給ヲ尚一層充令ナラシムルニト及ビ老人及少年ノ使用
禁止方ヲ要求セルが翌二十八日米軍司令部構内清掃者中ニ教
名ノ少年ヲ含ミ居ルヲ發見セシケツレシテハ百ビ本官及警務
署長並、業者側責任者ヲ招致シ現場ヲ指摘シテ^{最後}的考慮
慮ヲ促シ前記二項(外及四)ノ嚴守方ヲ命令セルヲ以テ爾後警務
例ヲレテ米司令部前其ノ他労働者集令地点ニ三名ノ警官ヲ配
置シテ出勤労働者ノ減員ヲ防止セシムルニト、也リ

海軍

0090

RA'-0003

0052

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

次ニ米側、於テハ勞務者(就中熟練勞務者)ノ賃銀支拂、自キ大ナル関
心ヲ抱キ勞務監督士官中個別的ニ事務局ニ問合セリ為シ其タル者ア
リタルカ地方米軍司令部内勞務係官ニ於テ佐藤連總官ト之カ支拂
方法ニ關シ種々協議ヲ重ネタル結果十月十七日米軍基地指揮官
(Captain of the yard)ヨリ戸塚中將並ニ本官ニ宛テ左記趣旨ノ
指令ヲ送達シ被セリ(附録一 参照)即チ

一九四五年十月十五日佐藤領事、戸塚中將及米國陸海軍士官
協議ノ結果熟練勞働者ノ各組ノ代表ハ姓名、住所及支拂ヲ受
ケザル勞働時間ヲ纏メタル名簿ヲ日本政府青局ニ差出シ各組
ノ米國監督官ハ本名簿ニ署名シ、當該勞務者ノ日本海軍関
係者ナル場合ハ十月十八日迄、之ヲ戸塚中將、又一般市民ナル場
合ハ之ヲ日本政府連總事務局(高田參事官宛)ニ提出シ、十月
二十日午後四時ヨリ五時迄ノ間、右名簿ニ基キ三笠會館内連總

海軍

0091

事務局及海軍事務所、於テ賃銀ノ支拂ヲ行ハルベク尙ホ自今
毎土曜日同時刻本件支拂ハ規則正シク為サルベキコト
右ニ隨ヒ青事務局、於テハ熟練工及進駐軍ト直接契約ニ依リ雇傭
セシタル勞務者ノ賃銀支拂ノ為メ準備ヲ完了シ居タルモ當日支拂
ヲ受ケタルモノ僅カニ數組、過ギザリシ状態ナリシガ其ノ後本指令ノ
徹底ニ伴ヒ之カ支拂ハ毎土曜日順調ニ行ハレツ、アリ
尙元海軍工廠、施設部及技術廠等ニ於テ終戦後引續キ元職
場ニ留マリ進駐軍ニ勞務ヲ提供シツ、アル海軍関係工員ニ對シテハ其
ノ復員ト共ニ青事務局ヨリ支拂ヲ受ケシムルコト、ナリ居レルガ又、市
役所、其ノ他市公署直屬ノ工員ノ賃銀ノ不均衡ニ關シテハ關係官
公署ニ於テ研究セシムルコト、セリ
以上青事務局、於ケル勞務供給ノ概況ヲ申述ベタル次第ナルガ本件
ニ關シテハ別號詳細報告申進スルコト、致シ度ク尙念申添フ

海軍

0092

第三、連絡會議(會報)

従来終戦連絡委員會議終務部會ヲ中心トスル連絡會議ハ毎日午後四時ヨリ三笠會館内事務室ニ於テ關係各方面ノ代表者參集シ上開催セシ事カ十月一日ヨリハ大野樞閣ニ參加シテ午後三時ヨリ之ヲ開催シ右終了後引継キ海軍各廳關係官ニ依ル打合會議ヲ行フコトナレリ

十月中本會議之上程セシ事主ナルモノヲ列記スルニ

記

- 一、横須賀海兵團ハ十月一日ヨリ之ヲ「復員收容部」ト改名シ海外ヨリ帰還ノ復員兵士ノ世話ヲおスコトナレルガ右ハ海軍解体後ニ何レカノ者、所屬ノ上事務ヲ執ル者、尚右ハ久里浜旧海軍工廠學校ニ設置セラル(海軍側報告)
- 二、進駐軍ヨリノ注文、依リ勞務乃至物件ヲ提供シ之が代金

海軍

0093

(新會報)

ヲ請求シ事ル場合ハ使ハ進駐軍ノ注文書又ハ發注證明書ヲ要スル、右右書類ヲ取揃ヘル様市注意セテ、右注文書等ニ各キモノニ對シテハ支拂ヲ行ヒ難シ(外務省側要求)

三十日一日邊見ノ軍高部官舎附近ニ於テ一少年、機関銃彈ヲ現ア中右爆炎後ノ為重傷ヲ負ヒ最寄ノ醫師ニ連レ行キタル又謝絶セシレ偶々、通行中ノ米兵一ノテ之ヲ海仁念病院ニ連レ行キ漸ク一命ヲ取留メタル事件アリ、右少年ノ母親ハ非常ニ感激シ右米兵ニ謝禮シ度キ旨申出居レリ(海合病院部長報告)
四、長井國民學校ニ於テ國旗掲揚式後午前十一時頃M、P某校ニ右國旗ヲ引却シ持帰リタル事件アリ(九月二十六日發生)
尚右ト前後シ、三浦中學校ニ於テ又M、Pニ依ル國旗引却シ事件發生セガ本件ハ米軍司令部ノ意向、依ルモノナリ又ハ米兵個人的惡戯ナリヤ否完リ要アリ、今後ノ推移ヲ見ルコトニ決定(十月一日市側報告)

海軍

0094

(新會報)

五、十月一日米陸軍將校二名通譯一名ヲ伴ヒ海軍第一技術廠倉庫ヲ捜査シ、其ノ米國陸軍トシテ受持地区ヲ調査ノ要アリト述ベ居タル趣ナリ（海軍例報告）

六、十月二日神奈川縣食糧課長大柳板間學校及武山海兵團ニ保管中ノ食糧ニ付縣知事ニ報告上鎮守府ヲ訪問シ、其ノ節南島島ヲ移運スベキ將兵二五〇名ノ食糧其他生要品ヲ控テ方要求セリ、尚聯合軍例ニ於テハ、右ハ軍人ニ與ラズルモノト非ズ、復員セルモノニシテ中夜トシテ與ラズルモノトシテ申居ル趣ナリ（浦修參謀報告）

七、横須賀市海仁會病院ニ米兵某ヲ種々惡戯ヲ為スニ付 M.P. 二名無連終方合院例ヲ要ホリ、尤ハ醫務例ニテ措置ノ上其ノ後 M.P. 二名ヲ立札ヲ立テ米兵ノ侵入ヲ防止スルヲ得タリ

八、十月三日矢野横山兩支隊米第五艦隊司令部ヲ訪問、十月一杯ニテ完了スベキ兵器及施設ノ接收ノ間ニ打合ヲ遂ゲタルガ右ハ我方

(新倉陸)

0095

海軍

トシテハ十月十五日ヲ待タズシテ速カニ引渡シテ了ラシムキ意向ニシテ既ニ施設ノ一覽圖ハ控出スル旨及横須賀地区ハ第五艦隊ヲ構成スルニ概動部隊ノ一タル東海西概動部隊ニシテ、司令官ハ「少将」シテ、旗艦ハ「カサタナ」(一萬噸巡洋艦)ナル旨報告(連終參謀)尚鎮守府長官ヲシテ、少将ニ對スル連終方法ニ付横山少将ノ質問ニ對シ米例ニ於テハ「ケツレレガ」代將ヲ通スベキ旨回答アリタル趣ナリ

九、大船池子ノ倉庫ニ解人落ト下筆ヲ盜ミ、其ノ一度ハ追拂ヒタルニ二度目ハ隊員ノ劔ヲ抜キ取り反抗セルニ付銃劔ヲ以テ格闘シ双方ニ負傷者ヲ出セリ(信子隊例報告)

十、聯合軍進駐後八月二十日ヨリ九月二十七日迄横須賀ニ於ケル事件總數三十八件ニシテ飲酒可能トシタリ(二十一日ヨリ十月二日迄)ノ事件二十五件ニ依リ飲酒ノ禁ヲ表明(陸軍局例報告)

(新倉陸)

0096

海軍

RA'-0003

0055

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

(新報)

十一、十月四日午前横内、於テ爆發事件アリ、死傷者相番アリ、

付正確ナル情報ヲ得テ流言ヲ防止セシムル旨要望(参考例アリ)

(本事件之關ニテハ前年第二ニ於テ報告)

十二、十月五日ヨリ久里港通信學校(新鎮守府所在)ト三笠會館

トノ間ニ一日位復舊、五日ノ連続ハスルヲ出スルニ決定(海軍例)

十三、横須賀地已然ニ施設ハ米軍側、於テ出入ヲ禁止申シ、

七日ヨリ開業差支ナキ旨(五日米側ヨリ通報、尚料金ニ從前通トスル

ニ將採用及下志兵用ヲ區別スル旨指令アリ(警察例報告)

十四、横須賀市、上陸軍用公衆便所ナレトノ声アリ、市ニ於テ之カ設置

ノ計劃ナキヤトノ質問、對シ(市例アリ)道路ノ構造上場所ノ選定

困難ナル旨回答アリ(五日)

十五、久里港鎮守府司令部、米第八軍使者某訪シ所管地已

内ニ於テ金銀ノ所在ヲ調査シ上調書提出方要求アリ云々

海軍

0098

(新報)

報告(参考例アリ)(海軍例ハ各廳ニ、民間ハ興行銀行支店、

走々問合セテ上調書作成提出トシテ決定セリ)

十六、三浦半島ノ米第八軍地内ノ保安隊ハ七日中、撤退ヲ要求、

兵器彈藥、軍需品及施設等ノ警戒ハ七日正午警察ニ移

管、自今海軍保安隊員及所属車輛ハ全区域内、出入ヲ禁セリ

トナリ(連続老澤報告)

十七、横須賀鎮守府所有ノ士官用短銃二千本横須賀總務處着、贈

與セリ旨報告(九日海軍例報告)

十八、南方ヨリ帰還將兵所持ノ軍票、付テハ當地銀行例、於

テ考慮中ナル旨報告(九日連続老澤報告)

十九、占領軍ノ不法行為、對シ十月三日附公文ヲ以テ米軍司令部

ヨリ出例取締方針ヲ明示シ、其多ク(附録ニ、参照)

海軍

0097

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0003

0056

(一) 米側、於テハ米兵ノ不法行為ニ對シテ之ガ予防策ニ有ユル努力ヲ傾注スベク日本側、於テモ證據不充分又ハ時日ノ経過等ハ極力避ケラレニキエト

(二) 犯行ノ時場所、種類及犯人ノ人相等、關スル情報ヲ以テ速力ニ被害者又ハ最寄ノ警察ヨリM.P.ニ届出ラレニキエト

(三) 尚書類ヲ以テ事故發生ノ時刻及日附並ニ被害者ナルモノノ氏名、住所及不法行為ノ内容ノ説明、右行為者ノ人相等ヲ記載ノ上提出ノスト

(四) 右ニハ最初報告ノ時刻、人、場所及官公署名ヲモ記載スベキエト

二十六、横須賀警察、於ケル留置者ヲ左ノ通調査セリ

十月八日米海軍士官ニ依リ

十月九日米第八軍士官ニ依リ (警察側報告)

(新倉地)

0099

海軍

二十五、十月十日附ヲ以テ横須賀地方掃海部設置セラル(防備隊内)

右ニ松波中佐駐在、尚土横須賀地方掃海支部及女川地方掃海支部ヲ設ケ海軍省及鎮守府並ニ後ニ殘存シ日米兩軍ニ依リ投下セラル機雷ノ掃海ニ當ル(海軍側報告)

二十六、横須賀地区、於ケル米陸海軍管轄區域ニ變更セラル十月十日以後海軍區域ハ堀之内三又路以上トシ他ハ第二二一砲兵大隊ヲ以テ少佐指揮下ニ入ル(海軍側報告)

二十三、武器彈藥施設等ノ移管ニ關スル担書面左ノ通決定

移管 倉庫側代表 内政部長

警戒 各地 警察署長

保管 市ハ市長、他ハ地方事務所長 (十三日海軍側)

二十四、南方ヨリ掃海ノ陸海軍將兵及民間人全般ノ酒ヲ控供シ

之キニ付一括申出要求アリ (十三日警察署長ヨリ)

(新倉地)

0100

海軍

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0057

(新報)

二十五、中央終戦委員会(陸海軍関係)に於て「マカーサー」司令部「マ
 ン」大佐(参謀副長)より近々國旗掲揚の時期、自総括
 的指令アル旨ナル旨聴取セル趣報告(矢野撤閩省松大佐より)
 二十六、金澤陸奥浦一保隊ハ十五日より三日以内、引上ルベキ旨米第八
 軍司令部より命令アリ(海軍例報告)
 二十七、十月十八日正午三浦半島地区内軍需品及施設ヲ内務省
 側之全面的に接管スル旨神奈川縣内政部長に指令アリ
 此之旨保隊司令部より接管命令ヲ發シ置キ(保隊報告)
 二十八、十八日米軍士官末時、米軍司令部命令トシテ自令横須賀線
 (有電)之一日四位復二等車三輛ヲ連絡スベキ旨傳達セリ(隊長
 報告)
 二十九、久里浜復員收容所、陸軍例連絡員事ヲ居ルニ市例より
 一連絡員無ク不便ナルニ付檢校終ル迄市例より連絡員ヲ派

海軍

0101

(新報)

遣方要望(十九日海軍例より)
 三十、米軍之供給スル勞務者ハ米例要求數より常ニ不足ト居リ毎
 日欠勤者ニ増加ノ傾向アリ交渉上不利ナルニ付關係當局ノ一
 層ノ援助ヲ乞フ旨日表明アリ(外務省例連絡員より)
 三十一、米軍之依ル我方砲台ノ爆破作業連日續行サレ、アル處十九日
 小重之於テ「レーダー」及「ラヂオ」ノ處理作業中民家ニ軒ヲ破損
 セル事件アリ(右内務省、移除セルカサミ日米軍例にて之カ修理ヲ完
 了セル趣ナリ)(市例報告)
 三十二、元横須賀工廠に於テ働キ居タル「クレーン」オペレーター「榎本茂」某ハ
 米第八軍之依リ横濱に連行勞務之徑事中、自青地海上起重機
 「オペレーター」トシテ令人ヲ勞務者ト共、返還方米海軍例より要求ア
 リタルニ付關係ノ向ニテ可然措置方依頼(佐藤連絡員より)
 (關係者例にて了承)上二十日)

海軍

0102

三十三、二十日逗子小壺に於て三三粒砲壕内爆発事件アリ

右ハ米軍に依り立入禁止解除セル、ヤ附近ノ住民壕内、殺到シ
鐵片、又ハ木片等ヲ拾收セリトシ壕内暗キ為國民學校児童「マ
ンチ」ヲ擡リタル瞬間壕内ノ火薬ニ引火爆発セル結果児童十四名
死亡、二十三名火傷ヲ負ヒ湖南「サナトリ」アムニ收容手當ヲ施シ
、アリ（事例報告）

三十四、中央事務局ノ照会ニ基キ二十一日當地米軍側ノ「ストーウ」所要求
問合セス處即日要求數ニ五〇ナル旨回答アリタリ聞込ニ依レハ
大船施設部倉庫内「ストーウ」ニ六〇個保管セル敏ノ処關係
方面ノ司令ヲ乞フ旨依頼（佐藤領事）
尙米軍用石炭毎週四貨車宛列着ノ予定ナル旨報告アリ
（其ノ後米軍八軍「ラウス」ストウガレ若干ヲ指差シ、アリトノ情報ア
リ裁介減少ノ見込）

(新倉總)

0103

海軍

0104

(新倉總)

三十五、十月二十五日午前十時頃久里浜防備隊棧橋に於テ爆発事
件アリ右ハ米陸軍に於テ中尉以下三名ノ士官黒人兵及日本勞
務者一六〇名ヲ使役シテ海中投棄火薬積出中一般体惣ノ
際黒人兵ガ飛行機ヲ投下ノ照明彈ヲ落下傘ノ絹ヒモヲ引取
リテ引火セル者狙テ、之ヲ海ニ投棄セズ陸ノ火薬山積レル方
向ニ投ゲ之ニ点火シ、附近引込中ノ貨車上ノ火薬、引火シテ其
ノ火爆發ヲ起シ、右ハ防備隊ニ引火シテ糧食ノ一部ト水雷部
倉庫ヲ焼キ、山ヲ越シテ機雷ノ倉庫ニ点火シ幸ヒ機雷裝填
ノ炸薬ニ引火セザリシモ兵器ノ予備品ニ点火シ、右ニ依リ貨車五
十輛ノ陸上火薬ト火薬積込貨車十三輛（六十輛ハ無事避難）
水雷艇及五噸舟艇若干ヲ焼失セルガ輕傷者三名ノニテ他、
死傷者無カリシハ不意中ノ奇事ト云フベク^{高木}民衆ハ相當破壊セ
シタルモノアルニ付、事例ニ於テ調査ヲ乞フ旨申出アリ（海軍側アリ）

海軍

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0059

右消火ノ為防備隊兵員勇敢ニ活動セルモ各地ノ水道不完
 備ノ為メ甚敷難澁セルニ付水道設備ノ改善ヲ要望セリ

三十五、十月二十七日ヨリ海軍部内連絡会ニ午後一時半ヨリ久里浜ニ開催、
 一般合報ニハ参謀代表ノ出席、尚一般合報ハ佐藤松永又ハ高
 崎両参謀司会ニ付タルニ二十七日以後ハ佐藤又ハ宇井連絡官
 ニ付タルニ付タル旨報告(二十五日海軍部ヨリ)

(爾後佐藤及宇井両連絡会之ヲ司会シ居レリ)

三十六、海軍工廠総務部長ヨリ二十七日工員ノ身ノ振方ニ付發言
 横須賀工廠ハ近ク閉廠セラルベキニ付一般工員ハ中々ハハト成
 ルニ付彼等ハ就レモ熱練工ナルニ付工廠ハ一悲閉鎖スルニ付閉廠ニ
 先キ監督士官親方ト成リテ現状ノマ、ニテ仕事ヲ繼續スルニト、
 ナリ米軍ヘノ勞務終了後モ右監督官勞務工員ノ就職ノ
 方法ヲ為ス方針ナリ

(新倉總)

0105

海軍

三十六、進駐軍火藥ヲ海中ニ投棄シ居ル処「ロウリ」散及銅等ノ毒
 素ニ依リ東京湾内ノ魚族ノ相當ノ影響アルベキニ付關係ノ白、
 テ市販品ヲ乞フ旨表明(海軍兼任連絡官澤ヨリ)

三十九、縣令軍進駐當時ノ民間ノ武器刀劍類ノ取扱、付之カ回收
 ヲ為レル処小銃、枝間銃、刀劍等ノ提出相當教ニ上リタリ、
 尚美術品タル刀劍ニ米例ニ付鑑定ノ上保存希望者ニ返済スル
 コトニレニ二十七日之カ鑑定ヲ行ヒタル趣報告(警察例ヨリ)

四十、十月二十日及二十一日ハ海軍上級者多量ニ復員スル為メ米軍ノ
 質問應答ニ関レ連絡困難トナルベキニ付右回答ニ時開ヲ要スベク
 右ハ早目ニ通告又ハ時開ノ全被ヲ要ヘラレタキ旨米例ニ付豫メ
 申入置乞フ(海軍兼任連絡官ヨリ)

四十一、二十九日郵便局長ヨリ報告ニ基キ

横須賀事務局ト中央トノ直通電話完成(終戦事務用)

(新倉總)

0106

海軍

RA'-0003

0050

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

外務(中央事務局ヲ含ム)、内務、大藏、商工、逓信ハ各、其ノ本
 者ト直接通話(但シ右ハ直結、非サルモ「決戦」外務本省ト要求
 也。終戦事務用特別線ニ依リ通話セシム)、尚陸軍外地復興局、
 鐵道總局、海運總局、農林省及厚生省ハ目下工事中ニシテ近
 ク完成スベキモ現在之優先的ニ取扱ハレ居ル旨報告(外務省側ヨリ)
 四三、米軍司令部宛郵便物ハ従来當事務局ヲ經由シ事務局
 ヲリ居ケ居タルガ今般米例ヨリ入門許可證發給セシタルニ付
 郵便局ヨリ直接司令部ニ配達下ルニキ旨要求(外務省側ヨリ)
 四三、海軍國有財産ハ十一月一日大藏省ニ移管スベキヲ以テ其後
 ノ支拂ハ受付ケサルニ付申了承知ス
 海軍工作廠及作業廠ハ十一月一日大體復興員スベキニ付連絡ハ
 人事部ニ依頼スルニト決定
 保安隊ハ十月末日限り解体スベキニ付代表ノ仕事ハ久里浜

(新倉總)

0107

海軍

鎮守府ノ臨時設置ノ警備隊ニ移サルベシ(藤田主任中佐報告)
 四四、南方ヨリ帰還シ元海軍施設部ノ工員韓人六〇〇名帰韓
 出立不職業ヲ求メ居ルニ付占配慮ヲ乞フ(海軍連絡參謀ヨリ)
 四五、三宅島ノ電力供給ハ本年六月二十四日(空襲)以降杜絶シ居リ
 タル処終戦後帰島民多ク人口約五千ニ達シ著シキ不便ヲ感
 シ居ルニ付同島内元海軍發電機ノ再使用許可方第五艦隊
 ニ申請セリ(三十日佐藤連絡官報告)
 四六、十月末日限り横鎖命令特第五師ヲ以テ海軍保安隊ハ全部
 解体セシメラルル旨ナリシ処残務整理並ニ兵器施設等ノ引渡
 未了ノ為所要人員ハ引續キ現役ノ終戦留ニ決定、准士官以上
 ハ鎮守府附之、下士官兵ハ鎮守府司令部附ニ夫々命令ヲ用ヒ
 知シテ任セラルル旨(海軍側報告)
 四七、本月二十一日海軍省、鎮守府及警備隊ハ廢止セリ、新

(新倉總)

0108

海軍

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0051

第二復員者及び復員局(地方)設置せしむル、予定ナル旨報告
(海軍側より)

四六、彈藥運搬作業之経事ニ居ル勞務者數現在六〇〇名ノ処
十月二日雨天ノ爲出勤數僅カニ三七〇名ニテ十一月一杯ニテ左作
業ヲ完成スルニ要アルニ勞務者困ニ於テ本作業ニ出臨ル傾向アリ、
右ハ危険ヲ伴フ病ノミナラス体力が續カヌトノ声アリ、依テ案
軍發行ノ方針ニ依リ一日三令ノ特配米六〇〇名分ヲ十一月一日ヨリ
一月間市當局ニ於テ考慮方懇請(釜井連絡官ヨリ)
尚十月二十五日以來「ガソリン」及重油等ノ陸揚作業ノ病一〇〇名
ノ勞務者夜間就業中ニ付十一月今ノ特配ニ希望アリタリ

仍ホ南方諸地域ニ残留セル陸海軍將兵並ニ在留邦人ヲ送還ス
ベキ各種艦艇及船舶ハ横須賀地区ニ於テハ終戦後浦賀、於テ

海軍

0109

整備ニ着手セラレ九月中旬頃ヨリ順次本港南下セル次第ナルガ

右第一回船トシテ十月七日氷川丸「マリナ」群島「ミレ」ヨリ浦賀
ニ入港シ約二千五百名ノ陸海軍將兵帰還セルガ其ノ後十三日
橘丸「ウエーキ」ヨリ、十九日駆逐艦「ヤブ」ヨリ、第十九師輸送
船「トラウ」ヨリ、二十日「初櫻」ヨリ、高砂丸「ウエーキ」ヨリ、
第十六師輸送船「エンターピ」ヨリ、二十四日「宗岩」ヨリ、第三
十七海防艦「エンターピ」ヨリ夫々帰還シ右ハ其ノ都度連絡會議
ニ於テ海軍側ヨリ發表報告セシレ帰還民及病人ノ宿舎病院
等ノ便宜供與ニ付當局ノ援助ヲ懇請セシレ專員會、於テ之
之等復員兵士並ニ民間帰還者ノ救恤ニ関シ能フル限リノ援
助ヲ考慮シ居ル次第ナリ

0110

海軍

成田第一部長
吉内第一部長

A'1.0.0.2-1

公 信 案

外 務 省

米系ノ貯蓄不引渡方申出ノ件

二〇、九、二〇

佐々木 領事

在淵辺 (原野田附近) アメリカ師團 American Division 司

令後「ア」下「イ」等ノ内容等不詳也「Case」ニ貯蓄シ「ア」米其

他ノ金額 先付ノ金 元料ノ腐敗 換傷セキ内 之等ノ適宜

ニ貧困者ニ配供スルメ 其長区内ノ配給機構ニ及テ 右物系

輸送上は如何「ア」ト「イ」ヲ貸与ス「イ」右ニ任 神若川集知

事ニ會見ノ事 代表トシテ Major Seymour (カ)ニ代表トシテ

公 信 案

外 務 省

2

Cpl. Brewer (日伴)ヲ派遣セリ。佐々木(日軍)供給ノ労働者

ノ係ヲ訪問ノ際日司令官ノ依頼アリ(代表ニ日行ス。知事不在

ナリ)「イ」代表ニ渡辺警務部長ニ會見右報告ヲ正式傳

達シ「イ」上 副係「ア」ト「イ」司令官「イ」各長部隊長宛引

渡シ命令書寫ヲ付交セリ。

渡辺部長ニ司令官ノ好意ヲ謝シ、直中關係改善案寫長

ニ訓令發出。引取方實行ノ時ニ本件「イ」出テ知事ニ轉達

ス「イ」同付。在事部關係ノ分ニ部長宛ニ秘牒。内務大臣

(日本標準規格 B5)

0112

(日本標準規格 B5)

0111

RA'-0003



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

マキオ達スハントモナリ。

高代志ハ今田ノアムル中出。他ノ米師團ニ卒定為モナリ
他ノ師團モ之レ做ラセト思ハント附言アリ。又本件ニ関スル向來
Military Government Officer. Lt. Col. Taylor 鼎側(按テ
預同員)ニ内出聯絡シアリタシキナリ。

本件ハ鈴木少佐ニ報告。横濱聯絡所員今田少佐、横濱
陸軍少佐ニ聯絡上、陸軍側ハ河田少佐、海軍側ハ伊藤少
佐ニ要領ヲ傳フ。

公 信 案

外 務 省

(日本標準規格 H 5)

0113

高代志 横濱少佐カ野茂少佐ニ付テ、我總隊カ目所在地
別物ヲ示シ、リス上ラマラアサリ司令部ニ提出シ度カ方ノ
指示ヲ付テ、九月十六日ニ付テ、指令アリ。期待シ、是レ
先カ目下指令ノ把握中ト思ハル。アムル上、是レ先カ方ハ
本件ヲ知ラズ。今田ノ申出ヲ為モナリト述ハルニ對シ
答復知事ハ「マアア山司令部、指令ハ法局右野茂少佐
民軍既供スルキトテ、命令ニ付テ、折角ノ申出ハ、事速ニ決
ト申出スルリシガ、是レモ、意圖向テ述ハルナリ。

公 信 案

外 務 省

(日本標準規格 H 5)

0114

RA'-0003

0064

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

A/1-0.0.2-1
M/1.2.0.1-1

大日本帝國政府

終戰連絡事務状況
終戰連絡中央事務局

(國定規格B5二六×三吾柱)

規格-B5 (東京 809)

0116

(copy)

HEADQUARTERS
AMERICAN DIVISION
Office of the Military Government
APO 716

19 September 1945.

SUBJECT: Japanese Foodstuffs and Clothing

TO: 横濱 - CO, Div Arty - Brig. Gen. Sloeana
平塚 - CO, 132nd Inf. Regt. - Col McQuarree
兵川 - CO, 164th Inf. Regt. - Col Mahoney
上海 - CO, 182nd Inf. Regt. - Col Dunn

All Japanese foodstuffs and clothing including blankets and bedding now under guard in division area that is in danger of spoilage will be turned over to ration boards in your assigned areas. Contact local police as to ration boards. Consider all food and clothing now in caves as subject to spoilage. You will provide transportation only for removal of these supplies to such place as the Japanese desire. No troop labor will be employed.

BY ORDER OF MAJOR GENERAL ARNOLD:

JAMES TAYLOR, JR
Lt Col, FA
Chief Military Govern-
ment Officer

This copy for Consul Yuki Sato for his information.

Lt. Col. Taylor

0115

RA'-0003

0065

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

大日本帝國政府

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...

(國定規格B5(210×330))

規格-B5(東京801)

0118

地方事務
送付
三、希
古田

一、收容...
二、言論出版...
三、政治的...
四、警察...
五、官庁...
六、財政...
七、軍需...
八、大同...
九、...
十、...

外務省

0117

RA'-0003

0055

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

一行アケ

九月廿一日 中旬 聯合國側 收容セラルル 捕虜留置所
 元國係以下 捕虜留置所 大森捕虜留置所
 大森捕虜留置所 後サレ又 捕虜留置所 病院ニテ
 療養中 在在元首 在在 七日 大森 收容所
 聯合國側 後ハニシハ 大森 收容所
 捕虜留置所 件ニヨリ 有名トナリタル事 其
 艦ニ 元國係ヲ 同所ニ 收容スルコト 其
 考ルスヘキ 互 著ク 願 薦シテ 同所ニ 收容
 換ヘルモソナレモ 聯合國側 日本カ 行ヒ
 如キ 捕虜 行フコト 取エ 取ツヘキコト
 思考シ 在リ 寧ハ 取ツヘキ 捕虜 行ヒレシ
 月一ノ 捕虜 行ヒレシ 捕虜 行ヒレシ 國ノ 人々

キの十の十九

0119

外務省

公の 待遇 セント、 意圖ヲ 有ス 元國係 或
 捕虜 在リカ 故 爾 余ノ 者ト 待遇 異ラ
 スルコト 聯合國ノ 方針ニ 照シテ 決定スル
 取扱 捕虜 在リカ 故 爾 余ノ 者ト 待遇 異ラ
 云ヘハ 大森 捕虜 留置所 捕虜 留置所 在リカ
 待遇 好ク 在リ 予 定 十リト コトナリ 之 亦 抑
 留者ニ 対シテ 在リ 之 元ノ 留置 所ト 連 結シ 必要
 ナル 一 層 入 品ヲ 候 務 シツヘキ
 在 留 元 外 在 其 後モ 引 續キ 自 家 監 禁 事
 形 式ニテ 療 養 所ニ ヲ アリ 阿 部 前 所 長 野 村 督
 聯合國ト 批 判ノ 結果 引 渡シ ヲ 中 止 スルコト
 トレリ
 ハラウシ 捕虜 救 護 事 件 之 実 情 セリト 結 合スル 捕

0120

外務省

RA'-0003

0057

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

8

抄本

兵三十四名ノ引渡要ホシ 九月三十日附書翰ヲ以テ
 十月十五日付トシテ英方又(キヨ)指合ニシテ来リタルカ之ヲ
 ノ者ノ(抄)大部分ハ現地ニアルニテト推定セラレ申共
 ニ後テハ調査ノ方法ナキヲ以テ此趣旨ヲ回答セリ
 昭和十七年四月十八日 日中邦土空襲表ノ米國飛
 行士處刑ノ責任者三名ノ引渡(抄)ハ十月十二日
 ニ指合ニ来リタルニ由リ事實ハ未定ト爲メラシムル者
 及遠隔ノ地ニアル爲テ至急出頭不可能ノ者等
 多ク澤田中將ノ(抄)出頭收容セラレタリ

0121

外務省

7

抄本

三、言論出版集会映画(抄)制限撤廃
 九月十日附ヲ以テ聯合國側ヨリ移テ、コラガオレ其
 他ノ報道ニシテ 眞実ヲ傳ヘサルモノ乃至公然ニ
 害ムルモノ、撤廃ノ禁止、言論ノ自由ヲ
 ノ勸奨ノ等ニ関シ申越 尚早ナル意見見ヨリ
 送付シ来リタルカ又ニ九月二十四日附ニ見カリ以テ
 一、日政府ハ(抄)報道ノ撤廃ノ障害トナルカ如
 キ措置ヲ撤去シ 政府ノ要ヲニ対スル強行
 フ即刻撤廃スルコト
 一、現存又ハ将来設立セ(抄)キ如何ナル通信社
 ニ対シテハ優先権ヲ与ヘサルコト 設備
 一、(抄)政府強行下ノ總テノ通信(抄)権ヲ

0122

外務省

RA'-0003

0058

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

8
2

總テノ國者及國際通信社ニ平等ニ利用
セシム(ヤコト)

一、通信院ニアラサル標莫ニヨル外國通信接受
標止令ノ撤廢

等ニ要シ申シ裁ス可アリタリ

依テ政府ニ於テ、即刻之ヲ趣テ、地方及種ニ
徹然セシムルト共ニ、新事業令、出版業令
令、新事業令掲載令限令ニ、（前令ニ於テ）撤廢セシムル
事ト決定セリ、且チ新事業令、九月二十七日之
ヲ解散、新令全國日刊社五十二社ニヨル自主
権ヲ奪ハリ、且チ新令聯盟生延スル等
聯合ニ於テ、何レモ急遽實現スベシ

外務省

0123

9

三、政治的、公民的及宗教的自由、制限撤廢問題

十月四日聯合國例、突如トシテ、（本件ニ要スル）廢止
ル覚書ヲ送付シ、（本件ニ要スル）撤廢

（一）政治的、公民的及宗教的自由ノ制限撤廢

種族、宗教、信教乃至政見ノ理由トスルニ至
別ノ限去スルコト

治法維持法、思想犯
保護親善法、國防保身法、軍用保身法等

（二）資源秘密保護法、軍用保身法等

（三）（本件ニ要スル）撤廢

（四）補足、執力ニ為ル一切ノ法律、新令、命令
條例及規則ニ、（本件ニ要スル）撤廢

一切除キサルヘキニ、（本件ニ要スル）撤廢

外務省

0124

RA'-0003



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

12

4

宗教ノ自由ニ関聯シ 聯合國例ヲ指示し其ノ
 依據ニ指示シアル 決議ニアラサルニ 神道内題ニ
 関シテ 米國國務卿極東課長「ジョン・グレンセン」ト
 カ十月七日 日中神道ニ 國教トシテ 廢止サル
 ヘク 國家的補正ヲ受ク（キニプラスト） 声出セ
 ルコトニ 近キ将来ニ於テ 具體的ニ 内題化スヘ
 キモノト認メ 対策準備中ナリ

(29)

憲法十月四日附

宗教團體法廢止を指令

0127

外務省

11

3

ン 聯合國例ヲ示シ 命令アリタル 擇定ニシテ 廢シ又
 内務大臣以下 特高警務官ニ 罷免乃至 休職
 シ 命令シタル 此數 四千數百名ニシテ 多ク
 中 宗教ノ 組織ヲ 維持スル
 智 政治犯ノ 釈放ニ 關連シ 在米 朝鮮人ニ 十月
 ナリ 司法省 前ニテ 「デモ」ヲ 行ヒ 其中
 十數名ニ 司法大臣ニ 面會シ 強要 朴烈 釈放
 ラ 強要セル 條件アリタルカ 聯合國例ニテ 長鮮人
 カ 日中ニ 於テ 政治運動 助リ 行ヒ 略キ 志スル
 カ 如キニ 以テ 外ニテ 言ヒ 外ニテ 穩便ニ 代表
 者ヲ 通シテ 行フヘキ ナリト 態度ヲ 持シ 朴烈 取
 扱内題ニ 関シテ 別途 研究シ 交キ 意向ト
 認メ 示レタリ

外務省

0126

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0003

0071

14

四、各種騷擾事件、集團的暴動、共産黨並不逞之徒、風水害等ノ天災時ニ對處ニハ爲集團的機動力ヲ有スル警備隊（全國ニ於テ約三萬人ノ常設警備隊ヲ置キ、必要アルトキハ加外約四萬人ノ警備隊ヲ一般警察及リヨリ編成スル）ヲ警備スルコト

而シテ兵卒兵士ノ後現在、如キ故ニ兵卒兵士ノ備ヲ以テシテハ到底事業ノ錢圧困難ナルヲ以テ、此等兵卒兵士ノ輕機自銃、自動短銃、中銃等所要ノ武器ヲ警備隊ニ右警備隊ヲ以テテ裝警備隊ヲ以テシテ

三、海軍ノ強化（全國ニ於テ約二萬人ノヲ行ヒ、所要ノ艦艇、燃料、器材ヲ警備スルコト

左ノ申入ニ關シ更ニ十月一日事務的説明ヲ加フルコトアリ

外務省

0129

13

四、警察力ノ增強問題

終戦ニ伴フ軍隊及憲兵ノ解体ニ依リ國內治安維持ノ全責任ハ專ラ警察力ニ於テ擔フコトナリ且シ食糧問題、失業問題、恶性ノ犯罪等今後ニ於テハ社會情勢ノ推移ハ治安上尙ニ容易ナラズモアルニ鑑ミ、前内閣ニ於テハ八月二十四日ノ閣議ニ於テ警察力ノ整備擴充要綱ヲ決定シテ對處スルコト、爲シタルカ、其ノ中警察委員及以テ裝備ノ增強ニ關シ聯合國軍機司令部ノ諒解ヲ得、十月十五日參謀副長「キニハ」ニ少將ニ對シテ之ヲ申入ヲ行ヒタリ

一、警察官ノ員數ヲ概テ現在定員ノ二倍ニ増加スルコト

二、警備隊ノ巡查幹部ヲ台ニ總數十八万六千余人トス

外務省

0128

RA'-0003

0072

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

16

五、官公署禁衛府問題

聯合軍司令部より禁衛府改組ニ関シ説明方要求越セルヲ以テ禁衛府ト連絡ノ上資料ヲ提供シ説明セル処、是方ニ於テハ旧近衛師團ノ將兵カ其儘居居リ居ルコト及衛士隊員カ四千名ノ多クタルコトヲ必西トスルマデヤノニ葉ニ関シ特別ノ関心ヲ示シ居リタルモ、未タ何等具體的意見表示シテ来リ居ラズ

カ十月十七日聯合軍司令部防務課長ヨリテ代將以下約名禁衛府勤務部員ヲ空地檢分セル

聯合軍司令部ヨリ禁衛府改組ニ関シ説明方要求越セルヲ以テ禁衛府ト連絡ノ上資料ヲ提供シ説明セル処、是方ニ於テハ旧近衛師團ノ將兵カ其儘居居リ居ルコト及衛士隊員カ四千名ノ多クタルコトヲ必西トスルマデヤノニ葉ニ関シ特別ノ関心ヲ示シ居リタルモ、未タ何等具體的意見表示シテ来リ居ラズ

0131

15

又ハ十月十一日ニ至リ聯合軍司令部ヨリ之等ノ申入ハ好意的ニ考慮セシメ「警備力ノ員數、組織又ハ武裝ノ増強ハ目下ノ処ニテ之ヲ実施スベカラス」ト回答ニ接シ、警備力ノ増強ハ不可能トナリタリ

但シ本件ニ関シ、新内閣ニ於テ更ニ檢討セカトモ且聯合軍司令部ヨリテ

外務省

0130

RA'-0003

0073

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

(英米三十二日 英米通函 五十一号)

ルルコトハ結構ナリ 我々ハ其ノ事ニ對シテハ十月
 四日附書者ニ依リ記述スルル政治思想犯人カ今次ノ大赦ニ漏レナク
 各人各々ノ居ルマニ各々ノ事ニ對シテハ其ノ心ヲ有スル譯ニテ(本ニ對シテハ
 其ノ通ナルニト但シ其ノ通犯トノ併合罪ノ場合ハ其ノ心ニ特赦書清
 ノ途カ物モ居ルヨリ各々) 其他ノ犯罪人ニ對シテハ日本政府ノ恩赦
 ニ對シテハ何等ノ心カ至ル答答ノ意向ク然ラズ恩赦ノ條件ノ
 下ニハ何等ノ恩赦トシテ言ハレ十五日後書者ニテ其ノ事ニ對シテハ

0133

(英米三十二日 英米通函 五十一号)

六恩赦問題
 神皇祭ノ佳節ニ事 恩赦ノ詔書書送者カ至ルル 十月四日
 附聯合王國司令郡書書ニ依リ政治思想犯人ノ齊放方西
 來我セル方ニ鑑ミ之方トシテ其大ナル同心ヲ持スヘキニト明カ
 トナレルヲ以テ可任者ト打合 十月三日
 同司令郡防務課長ヨリ代將ニ對シ
 △六恩赦ノ趣旨ヲ説明 此ニ是方ニ恩赦ノ事ヲ確メタ
 処ソレヨリ(英米三十二日) 天皇陛下カ恩赦ノ大權ヲ其神ノ之ニ由テ成感ノ深高メヲ

0132

RA'-0003

0074

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

(1) 直ニ地身租ニ付シ本件ノ租額ヲ圖リ引受メ引取ノ
 同様ナル遂行ト保存物質ノ準備ノ万全トヲ期シタリ
 (2) 特殊物件ノ處理委員會ヲ設テ(引受物質) 具体的
 物品別處理方法ニ關シ協議ヲ進メツアリ
 以下特殊物件ノ處理委員會ノ議ニ依リ成案ヲ得タリ
 特殊物件區分大綱ヲ十月十日附テ以下陸軍運輸中央
 事務局ヨリ聯合軍(總司令部)ニ提出シ且テ諒解ヲ
 求メタルニ未ダ公式ノ回答ニ達シ居ラズ
 尚此間ニ於テ陸軍ノ慮アル所鮮キ事等ハ聯合軍ノ
 諒解ノ下ニ處分シタリ

外務省

0135

軍需物資受取内照
 九月二十四日附テ以下聯合軍總司令部ヨリ發せラル
 外(陸軍)日本軍隊ヨリ受領シ且受領スベキ軍需物資
 補給品及設備ニ關シ(件)ニ依リ日本内地
 所在ノ日本軍隊ノアラユル軍需物資ハ本質的ニ戦争
 用ナルモノヲ除キ日本政府ニ返還セラルベク内務省其ノ銜ニ
 當リテ確實ニ之ヲ引取テ受テ民間破産ノ爲ニ倉庫、船中
 任取用ニシテ充當スベキコトヲ指示セアリ
 依リテ政府ハ相當官廳タル内務省ニ九月二十日附テ以テ
 陸軍ニ調査部ヲ設置シ本件ノ處理ニ遺憾ナカラシムル
 共ニ翌二十日陸軍運輸中央事務局ヨリ陸軍内務省調查部長ハ陸軍運輸中央
 聯合軍司令部事務局長トリスラツド准許ト會見
 細目ノ打合セヲ遂ゲタル上ニ格差ヲ講じタリ

外務省

0134

RA'-0003

0075

對ノ右ノ旨ヲ通報セシメ聯合軍側ヨリ二十四日附ヲ以テ日本刀ニ付テハ徑直官署
 二非カル兵實ノ民間人ノ所有スル美術ノ目的物多クモ一限リ除外ヲ以テ右ノ旨通報
 越セリ
 (二) 鐵銃ニ付テハ凡テ之カ引渡ヲ要求スベキ聯合軍側ノ意向ヲ以テ九月十五
 日附ヲ以テ聯合軍側ニ付テハ有官高敷ノ距離鐵銃ニ合用及皮革製物ノ為業トシテ
 使用セラルル旨ヲ逆明シ之カ係有許可ヲ要請セルニ付シ聯合軍側ヨリハ二十四日附
 ヲ以テ原則トシテ然方要請ヲ許答シ来リ
 斯クテ内務省官署ニ於テハ前記九月十五日附司令ニ基キ鐵高及同武器ノ蒐集ニ當リ
 居ル処各地ニ於テ聯合軍陣兵ガ警備器ニ赴キ茲ニ蒐集武器ノ引渡ヲ要求
 スル事件發生ニ居ルモ其ノ旨ヲ以テ聯合軍側ヨリハ本府所有ノ武器ノ引渡ヲ聯合軍
 側ニ引渡スル旨ヲ以テ之カ係有許可ヲ要請セルニ付シ聯合軍側ヨリハ二十四日附
 例ニ引渡スル旨ヲ以テ之カ係有許可ヲ要請セルニ付シ聯合軍側ヨリハ二十四日附

外務省

0137

九、民間武器ノ蒐集及提去問題
 一般命令第一号第一十二項ニ基キ日本國大本營及適當ノ日本官署ハ一般日本國民
 ノ所有スル一切ノ武器ヲ蒐集シ之ヲ聯合軍側ニ引渡ス導備ヲナスベキトヲ要求セシ
 居リタラシメテ聯合政府ニ於テハ右措置ノ導備ヲナシ居リタルモ右武器ノ範圍分明ナラズ
 特ニ日本刀、鐵銃ノ如キ加合スルヤ否ヤニ付疑問ヲタル地有リ
 (一) 日本刀ニ付テハ九月七日聯合軍側ヨリ日本軍隊ノ武装解除ニ同聯シ日本軍人ノ
 所有スル刀劍類ニシテ個人的財產タルモノハ之カ係有許可ヲ留リテ旨ノ通報アリタルヲ以テ
 日本刀ハ蒐集ノ對象ニ引渡ノ對象ナラズト解シ居リタルモ十一月二日ニ至リ聯合軍側ハ
 前記通報ヲ撤回シ右有刀劍ヲ含リ一切ノ刀劍ヲ軍國主義ノ表象トシテ取扱ヒ
 之カ係有許可ヲ要求スル旨ヲ以テ之カ係有許可ヲ要請セルニ付シ聯合軍側ヨリハ二十四日附
 例ニ引渡スル旨ヲ以テ之カ係有許可ヲ要請セルニ付シ聯合軍側ヨリハ二十四日附
 例ニ引渡スル旨ヲ以テ之カ係有許可ヲ要請セルニ付シ聯合軍側ヨリハ二十四日附
 例ニ引渡スル旨ヲ以テ之カ係有許可ヲ要請セルニ付シ聯合軍側ヨリハ二十四日附

外務省

0136

RA'-0003



國內一般産業ニ付テハ終戦後輸送力ノ麻痺、燃料、資材ノ枯渇、
 戦災、生産意欲ノ沈滞等ニ依リ全面的ニ停止ノ状態ナリシモ聯合
 國總司令部ニ於ケル民生産業ノ奨励、一般民衆生活ノ回復ノ意嚮
 ニ基キ九月二十三日商工省關係ノ軍向資材使用ニ係ル操業再開ニ
 付要請ヲ爲シ同二十五日軍向資材トシテ使用ヲ留保セラレ居リタ
 ル纖維、普通鋼、アルミニウム、皮革、電線、ゴム及石油ノ使用
 許可並ニ軍向在庫ヲ使用シ自動車、一般機械ヲ生産スルコトノ許
 可アリ工場再開ノ緒ニ就キタリ而シテ更ニ之ト前後シテ九月二十
 二日總司令部ヨリ指令第三號發セラレ必需品ノ確固タル價格統制
 及公正ナル配給ニ付指令アルト共ニ食衣住ヲ中心トシ必需品ノ生
 産ヲ奨励スヘキコト從前兵器航空機彈藥艦艇關係ノ生産ニ從事シ
 居リタル工場ニ付テ民需轉換ノ許可ヲ要スル外其ノ他ノ工場ニ於
 テハ民需生産ヲ活潑ニ行ヒ得ルコト等産業再開ニ關スル一般的方
 針明カトナリタルヲ以テ之ニ基キ一般民生産業ハ漸次活動ヲ開始

外務省

0138

シツツアリ
 尙聯合國側ニ於テハ衣食住確福ノ見地ヨリ必要トスル物資ノ輸入
 ニ關シ支拂手段ノ確保、日本船腹ニ依ル輸送ヲ要求シ居ルニ付右
 方針ニ基キ要求資料ヲ作成シツツ逐次要請ヲ説明中ニシテ他面米
 國側ニ於テハ我國ノ生絲等輸出ニ關シ重大ナル關心ヲ示シ居リ

外務省

0139

終戦
三三三
三三三

船舶運輸

上奏資料

第三部

陸軍及び海軍は二十一年八月七日付の訓令に於て本邦艦船（日本籍の船舶）を管理下に在る船舶（日本籍船舶）の全部を停船命令の下に置く其の管理権を聯合軍總司令官に接收せしめ爾今運輸艦船の改修修繕等一切の聯合軍司令官の指示若くは承認を受けることトナリたり

其の南洋各連路船・瀬戸内海・朝鮮島航路等ノ定期船・南緯ヨリノ停送輸送船・瀬戸内海九州各輸送船ノ船舶ヲ特定シテ包摂的承認ヲ受ケ其の他ハ船舶・郵船 認めテ申請シテ支障ナク運輸ニ充テシ船舶運修ノ船舶隊行率向上

我口民生維持ノ為海上輸送力増強ノ要緊切ナルニ鑑ミ聯合軍例ハ夙ニ我部亦テ促進シ来リ

0141

なにか九月二十九日正式ノ指令ヲ以テ船舶運修及港灣施設ノ一週七日間一日七回時間作業ヲ指回シ来リたり

之ニ因リ運輸局海運總局又厚生省ニ於テ法令其後ノ措置ヲ執リマナリ

○民間航空ノ禁止

日本民間航空ニ関シテハ陸軍及海軍運輸事務ニ関シテハ大日本航空株式會社ノ予ニ依リ運輸ヲ認めラレ得タルが十月十日ヨリ米軍極東軍ノ年ニヨリ右運輸事務ヲ果敢タルトナリ航空字號測量及營業用飛行ノ如キ又日本飛行機ヲ使用スルコトハ全面的ニ拒否セラルコトナリ（主要ニヨリ米軍一能ク援助ヲ為スル旨口頭定出アリ）

外務省

28

終戦後日本内地ノ華人勞務者（總數三萬一千名）及鮮人ノ一部（二百萬中約百四萬）ハ急速歸國ヲ希望シ動搖ノ極各地ニ於テ治安ヲ攪亂スルニ至レル爲帝國政府ハ之カ至急送還ノ要ヲ認メ聯合軍最高司令部ノ承認ヲ得タル上今日迄ニ華人約四千名鮮人約十五萬名ヲ送還シ今後ハ計畫的輸送ニ依リ華人ヲ約二ヶ月以内鮮人ヲ約五ヶ月以内ニ完了スヘク聯合軍側ト折衝スル豫定ナリ

華人勞務者
送還

0143

外務省

29

設營ニ關スル當面ノ問題ハ、聯合軍使用中ノ建物ノ煖房裝置ナリ。即チ資源回收ノ爲之等建物ノ「ボイラー」、「ラジエーター」等ハ殆ント全部取外サレ、一部ハ軍需工場等ニ轉用セラレ、大部分ハ或ハ既ニ鐵屑トナリ或ハ集積場ニ雨曝シトナリ使用ニ堪ユヌ狀況ニ在リ。聯合軍司令部ヨリハ十一月三十日ヲ期限ニ煖房裝置据付ケノ命令ヲ受ケタルカ右復舊材料不足ノ爲要求ニ應シ得ルモノハ極小部分ニ止マリ他ハ電氣煖爐乃至石炭「ストーブ」据付ノコトトシ目下之カ調達ニ努力致シテ居ルモ一般民需トノ關係モアリ相當ノ困難豫想セラル。

其他聯合軍ノ要求スル物資、勞務ノ供出ニ付テハ特ニ支障ヲ生シ居ラサルモ之カ補償ノ點ハ現在ノ不安定ナル經濟情勢ニ鑑ミルモ物價、勞賃ノ妥當ナル基準ヲ設クルコト困難ナル爲圓滿ナル解決ヲ見居ラス。

経
済
手
帳

三、
設
營
ニ
關
ス
ル
問
題

外務省

0142

RA'-0003

0079

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

30

船、練習船等約十萬艘中ヲ之ニ充當シ引揚ゲニ從事シツツアリ 今日迄ノ配船地域及引揚邦人概數左ノ通り(十月十四日現在)		
南洋方面	民船十四隻就航中	一八四七四二
比島方面	民船二隻就航中(他配航豫定四隻)	未選
南方方面	民船配航豫定二隻	未選
北支方面	民船三隻就航中	未選
中文方面	一隻配船豫定	未選
大島	(海軍艦艇ニヨル)	一五八八〇
三宅島	(同)	一五八八八
八丈島	(同)	一五八八〇
メレヨン	(同)	一五八八八
南島島	(同)	一五八八八
シレ・マロエラツ・ヤル	(同)	一五八八八

0145

29 (1)

5

五部二課關係
終戦ト共ニ概數約七百四十萬ノ同胞(陸海將兵約三百六十萬居留民約三百八十萬)ハ内地トノ連絡ヲ絶タレ外地ニ殘留シオル次第ナルカ之等同胞ノ中ニハ遽カニ其ノ生活ノ基礎ヲ失ヒ掠奪、暴行其ノ他ノ不法行爲ニ脅カサルル他或ハ寒氣ノ襲來ニ直面スル等窮迫日ニ加ハリ其ノ慘狀遂ニ憂慮ニ堪ヘサルモノ尠カラズ、斯ル事態ニ直面シ之等在外同胞ニ對シ一方能フル限り現地ニ於テ共存發展ニ努メシムル様指導保護ノ措置ヲ講ズルト共ニ他方引揚ゲヲ要スル者ニ對シテハ現地ニ於テ指導保護ヲ加ヘツツ極力配船ニ努ムルト共ニ引揚者ノ内地受入ニ付各種ノ對策ヲ講ズル爲關係各省及聯合國司令部トノ連絡折衝ニ當リオレリ

「ソ」聯占領地域ヨリノ邦人ノ引揚ニ付テハ「ソ」聯側ノ許可ヲ得ザルニヨリ未ダ配船スルヲ得ザルモ爾餘ノ地域ニ對シテハ聯合國司令部ノ許可ヲ得テ海軍艦艇(約一三萬噸)ノ他商船、病院

外務省

0144

RA'-0003

0000

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

98

内 奏 資 料
 十、二十 終戦五部

蘇軍占領下地域ノ状況

終戦ト同時ニ蘇軍ノ占領下ニ入りタル滿洲、北鮮、樺太及千島ニ付テハ交通通信全ク杜絶セル爲詳細不明ナルカ蘇軍及之ニ附和スル現地民々暴行掠奪ハ甚シキ模様ニシテ極寒期ニ臨ミ在留民及武装解除後ノ我カ軍隊ハ飢餓及凍死ノ大ナル危険ニ曝サレツツアリ帝國政府ハ夙ニ此ノ状況ヲ憂慮シ「マツクアーサー」司令部カ「マニラ」ニ在リタル當時ヨリ數回電報ヲ以テ其ノ善處ヲ要望シ「マ」司令部日本進駐後ニ於テハ重光、吉田兩外務大臣、終戦連絡中央事務局岡崎長官、兒玉總裁等ヨリ直接「マ」元帥又ハ「サザ」ランド」參謀長等ニ對シ蘇軍占領下地域ノ状況改善、右地域内

外務省

0147

外 務 省

上記ノ如ク今後續々在外居留民ハ内地ニ歸スルコトトナル次第ナルガ神の物質的ニ打撃ヲ受ケテ母ニ歸還スル多數同胞ノ援護ニ付テハ官民協力シ萬全ノ努力ヲ爲スノ要アリ受入港ニ於テハ諸設備ノ充實、糧食、衣料ノ補給、輸送ノ便宜供與ハ素ヨリ困窮家族ノ救済、移産等ニ付關係方面ト協力シ其ノ實効ヲ擧グルニ努メツツアリ、其ノ爲最近外務省及内務省ノ指導ニ依リ財團法人在

外 務 省

外 同 胞 援 護 會 設 立 サ ル コ ト ナ リ 廣 々 江 湖 ノ 協 力 ヲ 得 テ 強 力 ナ ル 援 護 專 業 ニ 着 手 セ リ、 此 ノ 他 同 様 目 的 ヲ 有 ス ル 民 間 團 体 ノ 援 助 大 東 亞 戰 争 勃 發 後 敵 國 ニ 在 住 シ 居 リ タ ル 邦 人 ノ 生 活 狀 況 調 査 並 ニ 之 等 邦 人 ノ 救 済、 援 護 ニ 當 リ 居 レ ル 團 体 ノ 指 導 ニ 當 リ オ レ リ

0146

RA'-0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0001

邦人ノ引揚促進等ニ關シ蘇軍トノ間ヲ斡旋方依頼セルカ更ニ同時ニ瑞典國政府ヲ通シテモ蘇聯ニ接觸ヲ試ミ又赤十字國際委員會及羅馬法王廳ニ對シテモ側面的援助ヲ要請セリ猶最近滿洲ニ於テハ蘇軍カ逐次撤退シ形式輝ヲ司令官トスル中國軍ノ進駐ヲ見ツツアル模様ナルニ付外務省ヨリ在上海谷太使ニ訓電シ中國側ニ對シテ右邦人救護ヲ懇請セシムルコトトナシタリ此ノ如ク帝國政府トシテハ盡シ得ヘキ一切ノ手段ヲ盡シ居ル次第ニシテ聯合軍最高司令部、赤十字、羅馬法王廳等モ常ニ同情的態度ヲ持シ居レルモ蘇聯側ハ我方ノ要望ニ對シ何等ノ反應ヲ示サス從テ現在迄ノ處蘇軍占領下地域ノ狀況ハ一切不明且同地域ノ邦人ノ引揚モ見込ミ立タサル實情ニシテ帝國政府トシテハ今後モ引續キ有ラユル努力ヲ拂フ

外務省

0148

34

ヘキ必要ヲ痛感シ居レリ

因ニ蘇軍占領地域ニ於ケル邦人概數ハ左ノ通ナリ

滿洲	1500000	400000	2100000
北鮮	320000	120000	440000
樺太	390000	160000	550000
千島	40000	50000	90000
合計	2140000	890000	3030000

内、滿洲ヨリノ引揚民 700000

居留民 武装解除後ノ軍隊 計

ニ華人勞務者及鮮人ノ送還

外務省

0149

RA'-0003

0082

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

YOKOSUKA NAVAL BASE
CAPTAIN OF THE YARD'S OFFICE

附
録

16 October, 1945

From: Captain of the Yard

To: Vice Admiral Totsuka (Attn: Paymaster-Comdr. Fujita);
Japanese Government Liaison Office (Attn: Mr. Takaoka)

Subject: Payment of Japanese skilled workmen

1. Yesterday Mr. Sato, Vice Admiral Totsuka, and a group of American Army and Naval Officers discussed the payment of Japanese workmen employed by the Americans. We now find that all of the common Japanese laborers seem to be paid regularly through their labor companies. However, to date, the Japanese skilled workmen have not been paid satisfactorily. After talking the matter over with Mr. Sato, we find that due to the great increase in labor demand by the Americans, the Japanese Government Liaison Office and Japanese Naval authorities were unable to keep an adequate record of all the Japanese labor used by the Americans. Consequently the Japanese authorities have been unable to keep the men working for the Americans paid to our satisfaction.
2. To make sure that all Japanese skilled workmen are paid up-to-date for their work with the Americans, a representative of each group of skilled workers will collect the names, addresses, and total hours of work for which the skilled workmen have not been paid and submit this list to the proper Japanese authority. Each officer in charge of a working party will certify on this list of names the fact that the men named did work the number of hours as listed, and sign this list. If the workmen concerned are Japanese Naval personnel, that list will be submitted to the office of Vice Admiral Totsuka (Paymaster-Commander Fujita). If the workmen concerned are civilians, that list will be submitted to the Japanese Government Liaison Office (attention: Mr. Takaoka). All of those lists are to be submitted to either one or the other Japanese authority, as explained above, not later than Thursday, October 18.
3. On Saturday afternoon, October 20, between 4 and 5 o'clock, all Japanese skilled workmen, who are civilians, will report to the Mikasa-Kaikan (Japanese Government Liaison Office near the Carney Gate) to pick up all of the pay that is due them up through Saturday night, October 20.

0150

- 2 -

4. On Saturday afternoon, October 20, between 4 and 5 o'clock, all Japanese skilled workmen, who are Naval personnel, will report to the office of Vice Admiral Totsuka (Paymaster-Commander Fujita) to pick up all of the pay that is due them up through Saturday night, October 20.
5. In the future, all Japanese skilled workmen used by the Americans will be paid regularly by the Japanese authorities. Naval personnel will be paid every Saturday at the office of the Vice Admiral (Paymaster-Commander Fujita). All civilian skilled workmen will be paid every Saturday by the Japanese Government Liaison Office. Those skilled workmen who do not work more than a few days will receive the pay that is due them on completion of their work by presenting their bill at the Mikasa-Kaikan.
6. Henceforth the Japanese Government authorities will keep track of all the labor they supply us and will be responsible for paying them regularly.
7. Each American officer in charge of Japanese workers will consider this letter as a directive requiring him to inform the skilled workmen employed by him as to the contents of this letter. Each officer is responsible for selecting a leader from among the skilled workmen under his jurisdiction to collect and submit in list-form the information required by the Japanese Government Liaison Office or the office of Vice Admiral Totsuka, as the case may be.

J. E. N O L A N

0151

RA'-0003

0083

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

C O P Y

OFFICE OF THE SUPREME COMMANDER
FOR THE ALLIED POWERS

First Division 3 Section

AG 000.5 (3 Oct. 45) GA

APG 500
3 Oct. 45

SUBJECT: Misconduct among Occupation Troops

THRU : Central Liaison Office

TO : Imperial Japanese Government

Receipt is acknowledged of CLO No. 54, No. 55 and No. 77 dated 27 September, 1945 and CLO No. 107 dated 29 September, 1945, concerning various instance of alleged misconduct on the part of American troops. Investigation is being made of those incidents and appropriate action will be taken.

While such actions as reported are not condoned and every effort will be made to apprehend and punish violators, it is noted that in the instant cases there appears to be insufficient evidence to properly identify the alleged violations. Identification and apprehension is made more difficult by the great lapse of time between the alleged offenses and the reporting dates.

To assist the occupation forces in controlling cases of alleged misconduct, it is desired :

- (1) That such violations be reported immediately by the offended person or the Japanese Civil Police to the nearest Military Police supplying such information as time, place, description of the offense and the identification or description of the offense and the identification or description of the offenders.
- (2) That a written report in duplicate, numbering each incident serially, be furnished this Headquarters as soon as practicable after the incident, giving :

0152

附
録
二

- 2 -

- (a) Time and date of incident
- (b) Place
- (c) Name(a) and address of person(s) allegedly offended.
- (d) Description of alleged misconduct.
- (e) Identity or description of alleged offenders
- (f) Time, place and person or headquarters to which initial report required in (1) above was rendered.

FOR THE SUPREME COMMANDER :

H. W. ALLEN,
Colonel, A. G. D.,
Asst. Adjutant General

0153

RA'-0003

0084

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

で經理し得るが、その後は直備となるか或つて現
 在米俸におよそ実施してつるLSO(レバーサー
 ビスオーダー)に依ることとなるか明らかでないが直
 備となる可能性が大きい。
 当地地方進駐軍事務者の希望を要約すると
 切替へに依り或るべし早く退職金をせよ、その
 後は系統なき國連軍に勤務することを望むが、し
 し直備となることは好まぬ、日本政府はありて
 身分を保証することを望んでゐる。この案に依りし
 行政協定に大きな関心を示してゐる。何れにせよ事
 務者は軍の撤退は直接生活の脅威となるので
 好まぬが、今時有利な条件を確保せんとしてゐる
 ことは事實である(例へば、兵市人口は約二十万、進
 駐軍事務者が失業するといふのはその家族を合し

連絡調整事務局

0156

約四万人の無業者を占むこととなり、當市として
 相当大きな問題となる)
 ① 駐在軍新立性官ハリソン少佐は條約を効後
 直備となった場合におよそ現任県の警務管理
 事務所の行つてゐる如き事務の遂行にソコ日本
 側の協力を求めらる。(現任直備者にはソコは特
 別な関知するところがないが、果しては側面的協
 力を要する)
 ② 海軍補給部隊停校の案とて依れば、其
 月十四日午飯の時に以て、ソコ司令部はBとFに
 統合せらるることとなり、海軍補給部隊は廢止
 せられ、その後、英連邦軍三十三補給基地がおか
 し、なる趣がある。因下英軍の兵米着と
 2つ、ある

連絡調整事務局

0157

寫

昭和二〇

平 京都 十二月二十三日 発
本省 二十六日 着

連絡

吉田外務大臣

秋山事務局長

第七七号 (便送)

(当地事務局近況報告並に請訓の件)

一、本月二十一日附を以て米第六軍徵発部長「ロンク」大佐より本
官あて十一月二十一日附にて一八〇の「トラツク、トツブ」引
渡方要求しその後引續き数回にわたり督促せるに不拘十二月十
九日まで引渡さるるに至らず右に關し調査の結果府廳官吏が適
正なる処置を採らざりしに基くこと判明せり依つて 辭なき本
件遅延に關し責任者(一人又は数人)を懲戒に附する爲必要な
措置を執り且本件に關し講せられたる措置の全般を十二月三
十一日までに回答すべしとの示達あり

二、又十二月二十日附にて同部長より製本注文に關し製本所新新年

外 務 省

0158

同文
H. 1. 0. 0. 1
下
A. 1. 0. 0. 1

A. 1. 0. 0. 1 3-1

五日間休業する由なるが十一月二十九日附本件要求は絶対的に
必要なるに付休業することなく本件要求の充足せらるること望ま
しきに依りこれに必要な措置を講しその結果十二月二十七日
までに回答すべき旨示ありたり

三、右第一項に關しては府縣側を調査せる処手落ありたること判明
せるを以て知事より文官懲戒令に依り商工第一課長松久事務官
同課山添技師及岩崎属を譴責処分に附することとなり(委細は
知事より内務省に報告の筈)又第一項に關しては往電第七四号
にて稟請せる通なるが不取敢知事に対し必要な措置を講ずる
様申入ると共に当事務局よりも業者に対し注告し置きたるが
右兩件の本官処理孤石の通米側に回答する所存なり以上に関し
御意見あらば至急御回示あり度

四、從來より第六軍は我方事務処理の遅延勝なること、「リツブ、
サーヴィス」にてその場避れの言辭多きこと、強く威嚇すれば

外 務 省

0159

RA'-0003

0087

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

必ず徵發課役の要求を達成し得ること、閣には物資豊富に存在すること等を列擧し要求の敏速達成方に関し府廳その他関係機関の迅速なる活動方要望し來れるが上記一及二問題に関し徵發部長「ヒング」大佐と本官再三懇談を重ねたる処要之米第六軍としては「ウイ、ミーン、ビズイネス」にて必要とあらば責任者は誠首せらるべく懲戒は事務の迅速達成の爲にしてその内容迄米軍は立入つて指図は爲さず兎も角能率を擧ぐることを強く要求せざるを得ずと称し第六軍より「マ」司令部に日本側の事務改善を考慮する様上申する必算にてその例として前記一及二の書面回答を求めたるものにして此の外にも米軍徵發事務に付事務の抄らざる幾多の例を擧ぐるを得る次第にて本官が交易營團を指示する等事務の改善を許したるを多とするも尙何とか具體的改善を計るべき旨要求して止まず本官より日本の今日の事情を説明するも再三「ウイ、ミーン、ビズイネス」と繰返し居

外務省

0160

れり
五京都地方裁判所石原判事能免に付ては既に当方より中央事務局第一部栗本連絡官との連絡及司法省よりの報告に依り御聞きのこととは存するも更に去る十七日には和歌山地方裁判所に於て執行猶予の判決に対し之を再審すべしとの同地駐屯軍よりの命令あり
右に對しては佐藤和歌山事務局長を通し大阪控訴院と協力し同地駐屯軍と右要求徹回方諒解を遂ぐる様折衝中なるが本件は六軍に接触し六軍より第一軍團及九八師を経て解決し得るか如き容易なる問題に非ず進駐軍の関する限り司法権の獨立無き今日往電第五九号刀劍問題の如く簡單に当事務局限りにて解決し得ず寧ろ司法問題に付ては中央事務局に於て「マ」司令部に「サウンド」し大体の用途を得て後当方へ指示さる外なしと存せらる此の点に付何分の御指示を仰度

外務省

0161

RA'-0003

0088

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

六本官着任以來進駐軍側と接触して見るに米側は立て仕事をし、日本側は座して仕事するは止むを得ざる所なりとするも占領軍の占領政策が現内閣乃至將來の日本政府を自己の「バベツト」とする積りなりや或は占領軍の要求を滿せばそれにて満足するや此の点根本的に疑はざるを得ざる節あり然るに一般内政官は平時の如き國內法令を忠実に守り「マ」司令部の「ダイアレクテイヴ」乃至各地駐屯軍の指令の実施は之を第二義として終戦事務局に委ね或は「メイ、フア、ブ」と爲し或は之に怖えて引込み逃げおる現状なり、

而て不頼の徒乃至各種の占領軍に接触するものは同朋相縛つ事件を醸し或は「マ」司令部を口実に自己の營利に利用する等の混乱を招き居るが又殘念ながら今日の現状なり

現在の如き内地官廳が進駐軍事務を第一儀とせざる状態にては「マ」司令部乃至各地駐屯軍の指示の爲帝國の行政、司法、

外務省

0162

立法各機關に徒なる混乱を 連絡受入の基礎も立たざるに鑑み近況報告旁々何分の御精鑑を仰

中央事務局總裁に轉報あり度

外務省

0163

RA'-0003

0089

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

A'1009-1

終連務課

昭和廿一年二月十四日

神奈川県知事 内山岩太郎

外務大臣 吉田茂 殿

右別紙ノ通ノ状況ニ有之候條御参考迄及報告條
_{瀬東委員ニ對スル管內事情説明ノ件}

神奈川県廳

21.2.10 21.2.19
秘書
0164

(東神 328)

RA'-0003

0090

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

極申委員ニ對スル管内事情説明ノ件
 藝ニ來朝中ノ極申委員一行ハ去ル一月卅一日來濱・縣側ト會見懇談
 フ遂ゲタルカ其狀況大要左記ノ通ニ有之御参考迄御報告申上候

記

一日 時 一月卅一日、自午前十一時至午后三時

ニ場 所 檳濱市中區本町四丁目

進駐軍將校俱樂部(元銀行集會所)

出席者 極申委員側

- ニユージールランド カールバランズン郷
- 米國(顧問) ゲスブレックレー博士
- オランダ ロイブリン氏
- 英國 チャイルスボクサー少佐
- 米國(常任幹事) ヒューデイーブアーレー氏
- 終戰連絡事務局 鈴木檳濱事務所長

檳濱市

縣側

- 内山知事
- 後藤内政部長
- 八木警察部長
- 田代經濟第一部長
- 廣橋經濟第二部長
- 田沼土木部長
- 佐藤官房主事
- 鍋田食料課長
- 田島檳濱市役

略

過

一月廿七日委員側ヨリ米第八軍及終戰連絡檳濱事務所
 通シ藤原前知事ニ對シ同卅一日午前十時會談
 希望ノ申入レアリ其後新舊知事ヲ導引繼アリ、卅
 一日午臨十時赴任、一日線上ゲタル内山新知事以下

神奈川第九三號

0165

前記氏名ノ者全部所定ノ場所タル將校俱樂部ニ參着
先方ハ第八軍訪問ノ爲一時間遅刻ノ上午前十一時
頃來場

双方紹介・知事挨拶、後懇談開會ハ
當初短時間ノ爲内政部長ヨリ縣政ノ概況ヲ説明スル
コトトセル方説明未了ノ中先方ヨリ當方ニ於テ用意
シ置キタル縣政概要説明書ノ提出ヲ求メ時間節約ノ
爲右ノ翻譯ヲ以テ概況説明ニ代ヘ度キ旨ノ申出アリ
以後自由懇談ニ入ル午前中ノ時間短縮セラレタル爲
先方ヨリ將ニ午後三十分間延長ノ申込アリ、午後一
時三十分ヨリ再開ス。懇談ハ終始極メテ熱心有效ニ
行ハレ知事ハ通譯抜キニテ常ニ自身説明ニ努メタリ
爲ニ當初ノ豫定ヲ超過シ概ネ三時近ク迄一時間以上
ニ亘リ懇談繼續セラル
閉會ニ際シテ米人顧問ハ將ニ縣政ノ成功ト日本ノ

再建ヲ希望スルトノ發言アリ、米人常任幹事及オラ
ンタ人、共ニ再會ヲ約シタリ

兵懇談内容

委員

一月四日ノ軍國主義的指導者追放指令等ト關聯シテ
日本ハ民主化ヲ如何ナル程度ニ進メツツアリヤ

内山知事

日本政府ハ目下充分慎重ニ考慮中デアル

如何ナル範圍迄之ヲ行フヤ其限界ニ付テハ目下検討中
ニシテ末々適確ナル訓令ニ接シテ居ラヌ、日本政府ハ
極力嚴格ニ廣範圍ニ解釋シ以テ訓指令ヲ遵守セントス
ル意向ヲラント信スルモ自分個人トシテハ單ニ一日或
地位ヲ占メタリトノ理由ニテ立派ト人物ヲ機械的ニ追
放スルト共ニ他面其本質ニ於テ眞ニ追放スベキモノヲ
見逃スト言フガ如キコト無キ様此際特ニ注意ヲ要スル
モノト信スル

委員

員

國民ノ民主化ノ爲從來ノ軍國主義的教育ニ付願ノ切

替ハ進ンデキルカ狀況如何真ニデモクラシーヲ理解シ
積極的ニ民主主義的教育ヲ行ヒツツアリヤ已ムヲ得ズ
行ヒツツアリヤ

内山知義 短期間ニ頭ノ切替ヲ行フハ困難デアルガ出來得ル限
リ速カニ實現スベク努力中ナリ學校教育ノ中心的地位
ニ當ツテ非軍國主義的ナリトシテ排斥セラレタル世界
法的自然法學者田中耕太郎教授ヲ据エタルガ如キハ其
一例デアアル

田島橋濱市助役 橋濱市ニ於テハ特ニ公民教育ニ力ヲ入レ昨年来
公民講座ヲ設置シ米人將校ヲ講師ニ招擧シ居ル狀況ニ
テ除々ニテハアルガ着實ニ民主化ノ實現ニ努力シツツ
アリ

委 員 政治ノ動向並ニ選舉ノ見込如何
内山知義 現在日本ノ政治ノ分水嶺ハ天皇制ノ問題デアアル此間

神奈川縣

憲法國リ日本ノ政界ハ確然ト左右兩分野ニ分レテ居ル
夫ハ恰モ歐洲ニ於ケル舊教ト新教又ハ王政ト共和政ノ
争ヒノ如ク深刻デアアル從ツテ此問題ニ付結論ノ一致セ
ル進歩黨ト自由黨ト社會黨ト間ニハ政策的ニ殆ンド大
トル差異ヲ認メラレス尙共產黨ノ提唱スル社會黨トノ
提携ニヨル人民戦線ノ統一的結成ハ不成立ニ終ルモノ
ト見テキル從ツテ新聞ラジオ等ニ誇大ニ表現セラレテ
居ル彼等ノ勢力ノ實體ハ餘リ大シタモノトハ思ハレヌ
現在ノ新聞ノ論調ヲ以テ日本ノ輿論ナリト速断スルコ
トハ最も危険デアアル然シ乍ラ過去ニ於テ日本ノ朝野ガ
遂ニ軍閥ノ跳梁ヲ許スニ至ツタアノ政治的無氣力ト利
己的態度ヲ以テ今日再ビ左翼ニ望ムトラバ遠カラズ彼
等ノ政略ヲ如何トモ爲シ得ザルニ至ル虞レガ十分デア
ル一自分ハ専門學校ノ學生ト中學生ト子供ニ持ツテ居
ルガ彼等ノ自由ナル言ハ恰ラヌ共產黨ノソレノ如ク奔

神奈川第九三號



0168
~~0168~~

放過激ト所ガ少クトイカ然シ充分話シ合ツテ見ルトソ
ノ共産黨トラザルコトヲ知ルノデアアル

(右ノ説明ニ對シ大體ニ於テ之ヲ諒解シタル感アリ
ル部分ニハ特ニ我意ヲ得タリトノ感ヲ表ハセリ)

委員 食糧事情ニ付如何

内山知事 日本全體ガ絕對量ニ於テ希相當ノ不足ヲ來シツツア
ルハ御承知ノ如クナルガ特ニ本縣ノ主食糧ハ七〇%ヲ

外部ニ依存スベキ狀況ニアリ特ニ復員者。進駐軍勞務
者。聯合軍貨運船乘組員等ニ喰込マレ絶對量ノ不足ハ

眞ニ深刻トシ成程日本全體ニハ絶對量トシテ四一五ケ
月分ノ手持ストツクアルヲ以テ其レ程心配ノ要トシト

ノ意見アルモ他面其レ以後ヲ如何ニスルカノ見透シ無
キ爲食糧ニ對ヘル國民ノ不安ハ極端デアツテ之方國民

ノ全活動ヲ應納且積極的ヲラシメテキルノハ事實デア
ル聯合國ノ中ニモ食糧ノ不足ニ困難シツツアル國ノ存

神奈川縣

スル此際日本ヘノ輸入ガ相當ノ困難ヲ伴フコトハ萬々
承知ナルモ現在ノ如ク絶對的ナル食糧不足ニ直面シツ

ツアル日本ニ對シ食糧ヲ提供セラハルコトハ人道的ニ
モ理解サルモノト信シテ疑ハヌ殊ニ積極的ニ日本ノ再

建ヲ指導援助セラレントスル聯合國ニ於カレテハ日本
再建ノ根本ガ道徳的ニモ物質的ニモ食糧問題ニ歸スル

コト明白ナル今日其ノ一滴ノ呼水ノ意味ニ於テモ速カ
ニ食糧輸入ヲ具體化スルコトノ必要ヲ承認スルヘルモ

ト信スル
(右ノ説明ニ對シテハ何レモ同情的ニ傾聴充分諒解セ
ルモノノ如シ)

委員 聯合軍ノ軍政ニ關シ此際特ニ或種ノ措置ヲ希望シ或
ヒハ現在ノ措置ニシテ差止メヲ希望ヘル等ノコトアラ
バ此際開陳アリ度シ

八木警察部長 現在ニ於ケル治安狀況並ニ終戦後著シク犯罪ノ増

神奈川第九三號

0094

RA'-0003

加セル傾向其中ニハ進駐重ニヨル犯罪ガ相當件數含マ
 レ居ルコト等ニ謝シ詳細説明アリタル後右ノ實情ニ
 即應スル警察官ノ増員万ニ付特ニ配慮ツ乞ヒタリ右ニ
 關聯シ委員側ヨリ警察官ノ素質如何・彼等ハ充分信頼
 ヘルニ足ルヤ、又彼等ノ待遇ニ付改善ノ要アルニアラ
 スヤトノ質問アリハ本部長ヨリ終戰直前ニ於テハ遺憾
 年ヲ警察官ノ素質相當低下シタルモ終戰後遂次改善サ
 レツツアルコト並ニ待遇ノ改善ハ考慮中ナリトノ説明
 アリタリ

田代經濟第一部長 現下喫緊ノ重要問題ハ食糧對策ナルガ我方聊
 奈川縣ハ消費縣ニシテ特ニ他縣ニ依存スルコト大ナル
 ガ生産縣ニ於テハ本年度粟米少ク食糧ニ關シテハ何レ
 モ逼迫シ居リ今後ニ於ケル食糧ノ輸入ニ付一段ノ御援
 助ヲ乞フ

神奈川縣

廣橋經濟第二部長 本縣ハ元來工業縣ニシテ戰災ニヨリ相當打撃ヲ
 受ケタルモ極力平和産業ヘノ轉換ヲ圖リツツアリ、然
 シ乍ラ各工場ノ手持資材ハ何レモ三ヶ月程度ニ過ぎス
 而モ今後材料入手ノ見透ナキ爲製造ヲ手控ヘツツアリ
 若シ此儘放擱ハレバ後復ノ損朽ヲ免レス戰災復興ノ爲
 ニモ見返リ品製造ノ爲ニモ是非綿化、鋼材其ノ他ノ必
 要資材ノ輸入ニ付御配慮アリ度シ
 (右ニ對シテハ何レモ諒解セルモ、ノ如シ)

田島橋濱市助役
 一橋濱市ノ再ビ生糸輸出港トシテ復活セシムル爲現在
 一部使用ヲ許可セラレ居ル生糸検査場ヲ更ニ解放セ
 ラレ度
 二進駐軍占據地域ガ今後何處迄擴大ヘルヤ探聽セラレ
 ザル爲復興計畫樹立上困難ヲ感シ居レリ、諒メ占據
 地域ヲ縮定セラレントヲ望ム

神奈川第九三號



進駐軍關係等ノ供出ニハ格段ノ努力ヲ拂ヒツツア
ルモ住宅ノキ爲相當遠方ヨリノ通勤者多ク確保ニ困
難ヲ來シツツアリ之等ヲ省着用住宅建設ノ資材等ニ
付格段ノ御配慮願ヒ度

内山知事 縣内在留ノ臺灣人ニ付テハ今日迄ニ略本國送送ヲ完
了セルモ尙中華民國人朝鮮人ハ相當數在留シ軍故モ各
所ニ頻發シ居レリ、之ガ早急ナル歸還ノ促進ニ付御配
慮願度

委員 極東委員ノ使命ニ付テハ如何ナル風ニ考ヘテ思ハル
ルヤ

内山知事 (一) 明白ナルモ返答ニ困難ヲ感ジツツ次ノ如ク答フ
國民ノ諒解ハ必スキモ一定セス或者ハ日本方指令完遂
ノ上ハ日本ヲ立派ナル國トスル目的ニア聯合軍指令
ヲ動カシ得ルモノト言フ然シ乍ラ相當多數ノ者ハ日本

神奈川縣

ヲ敵前スル目的ノモイナリト言フ
余個人トシテハ日本カボツタム宣言ノ趣旨ヲ体シ敵意
ヲ以テ指令部ノ指令ヲ遂行シ平和的ニ日本ヲ再建セント
ヘル時ハ近ク國際聯合ノ一員トシテ立チ得ル様指導
助セフルル有方ナル存在ト確信シ始メテカカル機會ニ
應レ、ルヲ幸ヒ余ノ考ヘテ開陳スル次第ナリ
之ハ余一個ノ意見トルカ衷心ヨリ希望スル次第ナリ
委員 然ラバ吾々ノ使命ニ付テハアイトメントヲ出ヘコトハ
如何

内山知事 何卒民衆ヲ納得セシムル爲ニモ才願ヒ致度
(一) 扶意ヲ得タリトノ感アリ

神奈川第九三號

電信寫

A'1.0.0.2-1

11'1.4.0.1にあり

號 番 總	二 八 九 四
號 符	平 昭 和 廿 一 年 二 月 十 六 日 一 一 時 三 〇 分
管 運 主	總

鹿屋 山路事務局長

吉田 總裁

第二二號

(軍政中隊所在地確認ノ件)

往電合第六〇號ハ佐世保事務局宛第二二號ヲ轉電セルモノニ付第
二一號ト訂正アリタシ

託帳濟

0171

RA'-0003

0099

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

A'1002-1

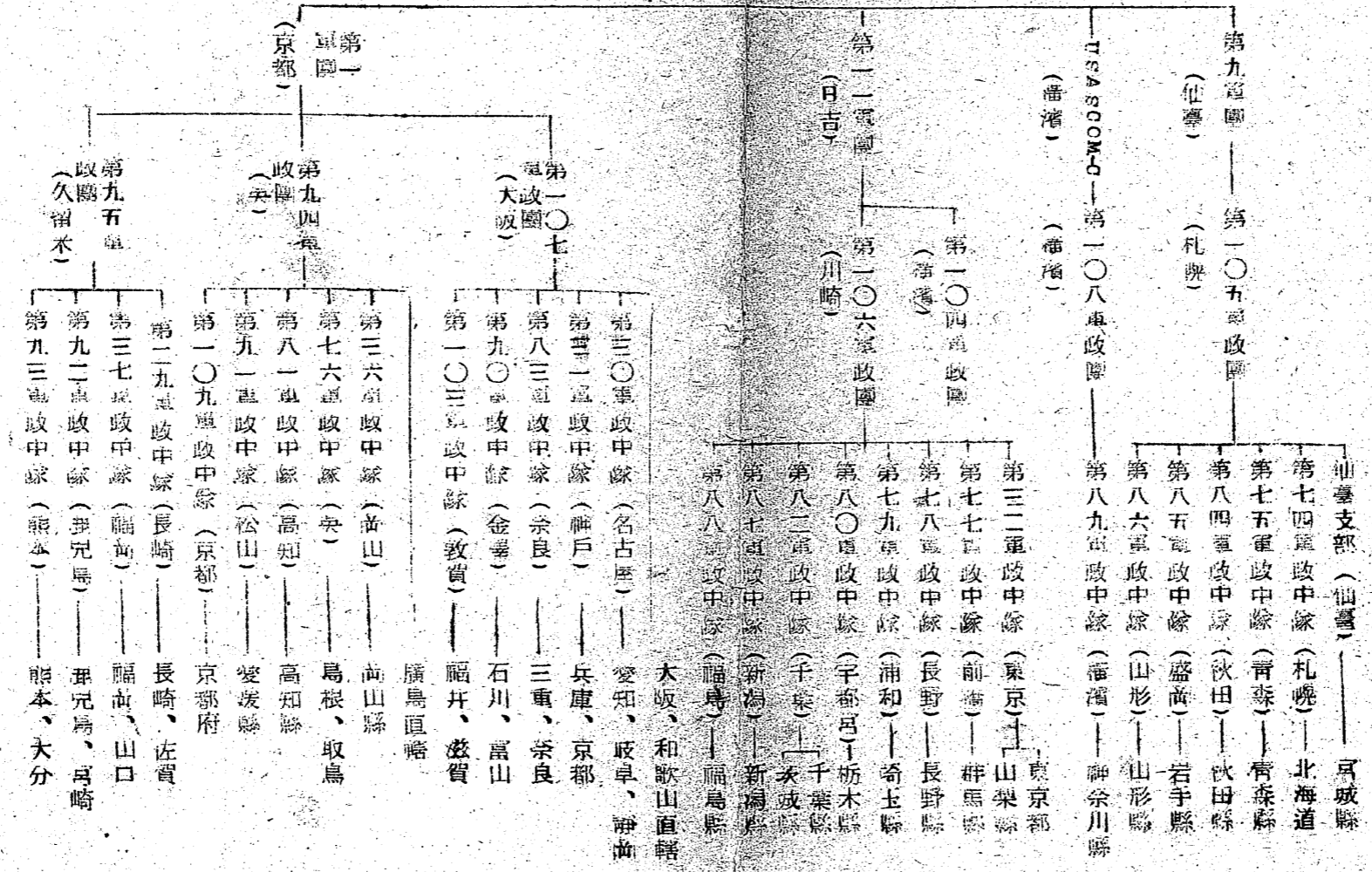
米第八軍團收系統一覽表

(昭和二十一年二月二十日現在)

課 務 一 課

司令部第八軍團
(東京) (備極)

(註) 表中括弧内、各軍團本部所在地、檢下政府縣名、管番配屬ヲ示ス



0172

0098

RA'-0003

RA'-0003

0178

昭二一〇〇

埼玉縣熊谷市

連絡官 山崎 健 通

水四号

当地面敷、現状報告ノ件

本件ニ関シテ、八位信州一馬伏、以下概況

報告、面々トシテ、概今田川村在任面敷ヨリ別紙

如、当地勤務面敷一覽表提出ナリ、等々ニ付

該許在記私見相亦報告中述ス。

記

一、最期(昭和九年十月十九日)当地ニ巡査セラル

タル通報、十九日ナリ、トモ、後更ニ柳並下

リ又一方是職勤務者ナリ、当地在籍面敷者、

二月十九日現在ニ十四名ナリ。

右ニ十四名中

山足際ニ当地ニ下ル、トモ、十五名

其ノ内、才九十七呼、於了突際、才五名教

ト了、指定セラル、居ル、トモ、九名

(四) 其他地、巡査セラル、居ル、トモ、九名

山才九十七呼、依リ指定セラル、才九名

(三四合雜貨部)

20x20

A1/0.0.2-1

0177

熊谷駅長

宇佐美作次郎氏

東京鉄道局熊谷地方事務所長風岡司郎氏

忍野常吉氏 山崎 健 通

右各員並ニ其ノ他ニ関スル詳細ニ隨時通

報スル。

以上

(三四合雜貨部)

20x20

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

終戦連絡事務局業務

第一五号

昭和二十一年三月十三日

別紙添付

敦賀駐在

連絡官 福島 茂吉



終戦連絡中央事務局總裁吉田茂 殿

福井沼原両縣知事ノ軍政官ト懇話ニ因ル件

齋藤福井縣知事(内務部長 秘書深長同伴)及柴野沼原知事ハ、両縣管轄ノ在當地「ハイランド」軍政官ト懇話スルヲ主シル目的トシテ、執レテ三月八日未敷(両知事ト同時會談ニ付テハ)置キ、軍政官ノ沼原縣出張ノ際、柴野知事トノ同ニ會合アリタリ。午後二時半ヨリ二時同半餘ニ亙リ、軍政官ト懇話ノ交ハ、同夜ハ

終戦連絡京都事務局

齋藤知事ノ招宴アリテ軍政官、福井及大津駐在各副軍政官以下ノ幹部共、他計約二十名出席。両知事ハ一泊ノ後、翌九日當地出張夫ノ滞任セリ。右懇話會、於テハ會場培養、戦災復興、衛生具、他ノ問題點探討セシメ、今後ノ施策推進ニ資スル所解カシサルヤニ認メシレタル也。右概要何事ハ参考迄別紙報告申進ス。

(左欄)

0183

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0003

0104

軍政官ト福井滋賀両縣知事懇談會概要

(昭和廿一、三、八、敦賀、縣外向出張所)

出席者 軍政部 ハイランド 軍政官(敦賀) ウィルソン少佐(福井、

副軍政官) トロガー中尉(大津、副軍政官) 其他幹部

顧問 藤福井縣知事、内務部長、秘書長

柴野滋賀縣知事

福島連 終官(敦賀) 木村連 終官(大津)

藤澤地方事務官(敦賀) 福井縣外向出張所

一、柴野滋賀縣知事ヨリ 軍政官ニ対スル報告トシテ左ノ通述ヲ

1. 福井縣戰災復興ノ為 滋賀縣ヨリ送出ノ大工ハ 差當リ三十名

トシ 飯ニ何日ニテモ 送可ク 状態ニテ待機中ナリ

終戦連絡京都事務局

2. 返還物資ノ処理 統制機關へハ 割引渡シ 消費者ハ

三割乃至四割配給済ナリ、尤モ食糧ニ付テハ 殆ト全部

飯ニ消費者ハ 配給済ナルカ 未配給ノ分ニ付テハ 之カ配給促

進方手配スヘシ

3. 聯合軍備備蓄格者貸金 最近増額セラレ 滋賀縣ニ於

テハ 飯ニ改訂貸金表完成シタルニ付 軍政官ト相談ノ上 措置

スヘシ

4. 衛生問題 痘苗ハ 御心配ヲ蒙リタルモ 飯ニ政府ハ 助ヨリ

充分シ量(約八十人分)ヲ入手シ、發疹チブスニ対スル

DDTハ 目下入手中ナリ、尚 マラリアノ 発病アリタル 八幡町

方面ニ 於テハ 溝渠ノ 清掃ヲ 勵行シ 啓レリ

5. 漁網修理関係 他ノ一定品目ト同様法律ノ 制限アリテ 地

方長官ノ ミニテハ 処理ヲ 難ナシ 事精アルモ 東洋紡ト 相談ノ

(京都二)



結果差當り二十噸（一二五噸）入手の見込着キタリ

(ハ) 軍政官ヨリ福井縣ニ於テ使用スルキ漁網用綿糸ハ至急手配致シ度連絡官ヘモ通達済ナルモ未ダ中央ノ具體的指圖ニ接セサル旨述ブ

二、次アハイランド軍政官ハ左ノ諸問題ニ付兩縣當局ノ措置板ニ関スル情報乃至意見ヲ求メタリ

1. リンクノ制トハ如何ナルモノナリヤ

(イ) 紫野 滋賀縣ニ於テハ油ニ依ル魚類リンクノ制ハ實施シ存スル右ノ縣トシテ漁業力比較的小規模ノ産業ナルニ依ル 食糧増配ニ依ルリンクノ制ニ漁業者カ多ク半漁半農ナル因テ係アリ滋賀縣トシテ實施ノ要ナシト思ハルモ更ニ研究致度 尚本邦ニ中央指定ノ水場地一〇個所アリ 付縣ニ於テモ同様指定シ得ル許ナルカ此ノ指定地ヲ根據地トシテリンクノ制カ

實施サレ居レリ

(ロ) 齋藤 (内務部長ト相談ノ上) リンクノ制ニ付テハ 今何等承知シ存ス 至急取調ブベシ

(ハ) 軍政官ヨリリンクノ制ニ関シ調査者第八軍司令部ヨリ一月二十三日附命令モアリ 大至急情報ヲ得度シト要請ス

2. 漁業用油ノ件 三國ニ坐礁セル第十六蓬萊丸ノ重油拂下ハ一應未ダタルモ福井縣ニ電氣着火式機因(ガソリン)使用可能) 設備ノ小型漁艇 約二百隻アリ 右漁艇ノ中配給油ニ依ル操業ハ僅カニ全体ノ一割、其ノ五割ハ高油ヲ入手操業シ残り四割ハ全ク遊休ノ状態ニテ極メテ遺憾ノ次第ニ付至急適當措置アリタシ

(イ) 本件ニ付本縣所在航空用ガソリンヲ利用方手配ノモトナリ中央ノ照會ノ結果 其ノ指令ニ基キ縣ヨリ具ノ特配ヲ

(京都三)



申請スルコトニ水産課ト諮合済^テ昨七日既ニ措置セシレタリコトト
 思考スル旨 福島連絡官ヨリ説明ス

3. 軍用建物及土地ノ民需向利用方 下件ハ所合軍最高
 司令部ノ認許ヲ得ル必要アル処 目下所合軍ノ使用シテ居ル
 七ノ付希望アリハ其ノ所在ノ事由ヲ詳記シ且見取^因ヲ附シテ
 軍政官宛申請セシレ度 軍政部ハ通常ト認メタル場合
 勸告ヲ附シ司令部ハ申送り認許ヲ得ル様取計ヲハシ

4. 返還物資配給ノ件 之ハ先程柴野知事ヨリモ説明アリ
 タルカ多クノ場合永ク紙上計査ニ止マルコトアリ 現實ノ配給
 ヲ促進スルコト必要ナリ 本件ニ付テモ軍政部ハ近ク上局へ
 報告ヲ要スル次第ナリ

5. 軍需工場ノ民需産業轉換 福井縣ニ於ケル該當工
 場ハ僅カニ二三ニ止マルモ滋賀縣ニハ百以上アリ 何レニセヨ

終戦連絡京都事務局

轉換希望ノ向ニ急速ニ其ノ手續ヲトスル様指示配アリタシ

6. 衛生問題ニ付テ渠壕ノ清掃ノ衛生ト失業救済ノ兼ニ
 一石二鳥ノ策トシテ極メテ有效映^映ノ問題ト思ハルニ拘リス
 概ニ遅々トシテ進マズ 今ヤ向暖ノ候ニモアリ急速實施ヲ要望ス

7. 家賃減利用方 最近綿半使命團員ヨリ自今(ハト軍
 政官)ノ受領セム私信ニ依テ敷金ニ船ヲ入レ福井滋賀
 両縣ハ棉花ヲ供給スル下良策ト思ハルル旨申送り来レル
 カ頗ル妙案ナルハコト考^考過^過御披露ス

8. 肥料、セメント増産ニ重炭利用方 之ニ必要ナル石炭ハ
 極メテ窮乏ナル現状ニアル知 石炭ノ代リニセメント工場ハ
 重炭ニ割(石炭ハ割)硫安工場ハ重炭四割木炭六割
 ニテ操業可能ノ趣ナリ 幸ヒ滋賀縣ニハ重炭有ルニ付
 之カ利用ヲ研究實施シ度シ

(京都二)

(柴野) — 亜炭、戦時中極メテ合理的ニ使用サレタルカ
其ノ後之カ増産ニカキ入レタリ 滋賀縣ニ於テ石灰
鑛山開采ノ者山口縣方面ノ燐燐灰ヲトリ亜炭ト混合シ
テ利用スルト直ニ思ハル

9. 秀山ニ對スル植林勵行方 戦時中濠洲ノ結果最近水
害頻ニ多クナル由セルカ 本園ニ於テハ日本ヨリ輸入植物
Ludlow (著)ヲ植ユ

(柴野) — 日本ニテハ、秀シバリヲ植ユルモ甚クモ研究ノ價値アルベシ
天然瓦斯、木炭、亜炭増産及輸出 之等ノ増産利用ハ
極メテ大切ニシテ、亜炭、石灰、電柱、坑木、セメント、石灰、
肥料、薬工品等ノ輸出ヲ計リ輸入ヲ促進スルニ必要ナリ

(柴野) — 只今學テシタルモノハ、薬工品ヲ除キ皆不足シタル
モノニテ、昨令軍例ノ命令トアリハ輸出ニ妨ガレ難クナリ
ナリト思ハル

終戦連絡京都事務局

不足ハ承知シタルモ、増産ニ努メヨリ一層不足缺乏セル品物
ヲ輸入獲得スルニト寧ロ得策ナラズヤ

11. 製材工場等ニ二十四時間操業實施方 先般當敷^{製材}於
テ製材シタラシメ材木ノ運搬意ニ委セストノ趣ナリシ付、軍政
部ハ、トランプ^{トランプ}ヲ供テシテ運搬ニ協力シ、目下木材ハ充分
積マレ、音^音ニ拘ラス、製材工場ハ、因^因六日一日八時間ヨリ働カス
食糧加配等ノ問題ハ、アルヘキモ、復興^{復興}製材缺乏ノ折柄、是
非トモ週七日二十四時間操業ヲ實施セシメタシ 木材
ハアリ何故ニ百%操業セサルヤ 軍政部ハ不可能ヲ強
ヒルモノニアラズ

12. 釘製造機械 極メテ重要ナリ 戦災地ニハ木ノ鐵材
等ヨリ設置サレタル付之ヲ蒐集シ釘等ニ利用方望マシ

(京都二)



(柴野) 製釘機製化所設置ニアリテ操業中ナリ
 福井ハ其ノ機械ヲ送レタシ
 13. 工場等ノ調査官任命方 一定地域各ニ轉換工場、未開發資源
 其ノ他調査、為軍政部ニ於テ調査官ヲ任命シ隨時報告
 セレバシ
 (縣内場長ヨリ縣廳ニ於テ自願中ノ各述ハ結局福井滋賀内
 縣當ノノ手ニテ適當ノ者ヲ選任スルニト致度各申出ラ夫ニ落着不
 14. 漢船々着場後課 (設置、庄ノ川口及小漢) 庄ノ川口ニ付テハ
 縣技師官ハ後課ノ必要ヲ認メストノ意見ナリト趣ナルセ
 軍政部ニ於テ再度調査セシムル事ハ依然之ヲ希望シテ
 望シ各ハ付至急實行セシタシ (初事承諾)
 15. 福井滋賀内縣警下携帶用拳銃ノ件 連絡官ノ通シ中央、照会
 中ナルカ未ダ何等指示ナシ其ノ同小銃携行ヲ許スコトセリ

(終) 冬、戊辰各官事務司

RA'-0003

